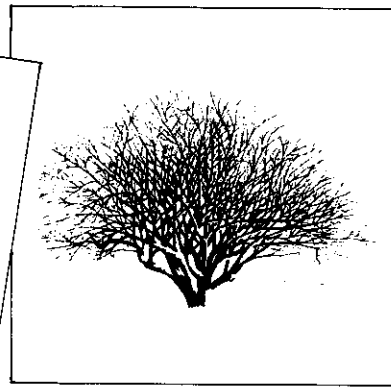
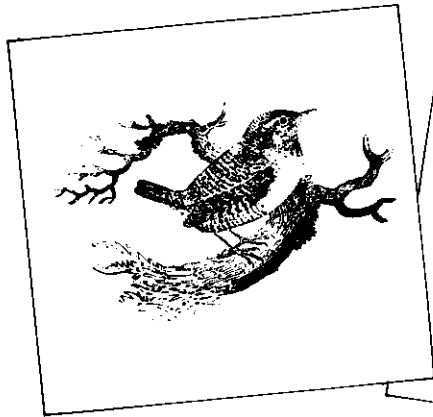


■安積中学校■安積高等学校在京同窓生

東京桑野会会報

●昭和63年4月1日発行●発行・編集人 澤田 悌●発行所 東京桑野会事務局 〒101 東京都千代田区神田錦町2-5 KSビル3F



10



デザイン・渡辺 守治



ご挨拶

東京桑野会会長 澤田 悌

- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓会の親睦の会であること
- ②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③何んらかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

昭和63年度総会を迎えるに当たって
会員の皆様には引き続きお元気にお越しのことと
拝察お慶び申し上げます。

当会は別項記載のお知らせの通り、来る4月15日
に昭和63年度の会員総会を開催いたします。在京の
同窓生が集って愉快地に桑野の昔を偲び楽しく相語ら
う絶好の機会であります。どうぞ多数の会員の方々
が奮ってご出席下されたくお願いいたします。

又当会の会報も本号をもって第10号を数えること
ができました。何年か前迄は会報をもたず物足りな
いことでしたが、昭和57年4月に第1号が発行され、
その後逐次内容も充実されて今回記念すべき第10号
を皆様にお届けすることができました。編集関係各
位のお骨折りに深く感謝する次第です。何といたっ
ても会員名簿と会報の二つが会の運営の基盤となり又

会員に対する情報手段として欠くことのできないも
のです。今後も会員名簿の正確化と充実した会報の
発行に努めてまいりたいと思います。

東京桑野会は昨年総会において2年目毎の役員
の改選が行われました。各年次毎に設けられた幹事
さんには引き続き会員の総会への出席や情報の交換
等を密にするためよろしく願います。又常任幹事会等
を随時開催して会の運営方針を練りつ
つ懇親を深めるようにしております。なお有志の懇
親ゴルフ会や囲碁会を催しており更に各種の懇談会
なども計画しています。

それでは来る4月15日の総会には桑野の同窓生の
皆様多数ご出席下さって盛大で愉快的な懇親会とな
りますよう期待しご挨拶といたします。

東京桑野会定期総会開催のお知らせ

東京桑野会の一年のメインイベントである定期総会と会員の懇親会を開催します。

会報の一面にもありますように、会員の親睦を図り、仲良く楽しい、会員の頼りになるような会にするためにも、できるだけ多くの方々が参加されますようご案内申し上げます。

- 期 日 昭和63年4月15日(金曜日)
- 時 間 午後5時 ー受付開始
午後6時 ー総会
午後6時30分 ー懇親会
- 議 題 1.会務報告の件
2.予算決算の件
3.その他
- 場 所 目白椿山荘
東京都文京区関口2-10-8 (☎03-943-1111)
- 会 費 懇親会費 8,000円
63年度会費 2,000円

ただし学生会員は、年度会費を含み4,000円とします。若い会員の多数の参加を期待します。
なお、当日出席できない方は、同封の振込用紙で年度会費2,000円のお振込をお願いいたします。

◇準備の都合もありますので、出欠のご返事を同封の葉書で3月末までにご返送下さいませよう申し上げます。

◇また、連絡もれもあるかと思われますので、恩師やお知り合いの方もお誘い合わせの上、多数のご出席をお願いいたします。

◇62年度は、昭和62年4月17日に開催され、200名を越える参加者がありました。年毎に盛会になりつつあります。前回を上回る参加を期待します。

◇東京桑野会の名簿は、残部があります。ご希望の方には一部500円でお頒けします。

◇年度会費は、会の運営のために是非必要なものですので、ご欠席の方は同封の振込用紙でお振込願います。

母校便り

合唱部 全日本コンクール
銅賞の快挙

★5年に一度開かれる『紫旗祭』が、8月31日に始まった体育祭を皮切りに、全員参加の仮装行列などの行事を中心に盛大にとり行われた。

★合唱部：昭和62年11月22日に行われた第40回全日本合唱コンクール高校の部において、名誉ある銅賞を受賞した。これは安積高校合唱部始まって以来の快挙である。

★放送委員会：NHK全国放送コンテスト全国大会に3年連続出場を果たした。

★剣道部：第33回高体連県大会において、4年ぶり4度目の優勝を果たし、全国大会に駒を進めた。全国大会では、惜しくも予選リーグで敗退した。

★その他：同上の大会で卓球の個人シングルスで一人、軟式テニス部の個人シングルスで2組が優秀な成績をおさめ全国大会に出場した。

(安積高校新聞125号、126号より)


会員動向

●津田 亮一氏(46期)は、FM東京専務取締役から同社長に栄転されました(6月29日付)。

●佐藤栄佐久氏(71期、参議院議員)は、62年11月の竹下内閣発足に当たって大蔵政務次官に就任されました(11月10日付)。1月28日には、澤田会長も発起人の一人として、ホテルオークラで就任を祝う会が開かれました。東京

海外担当支配人
竹花則栄(55期卒)
CHINZAN SO
椿山荘
東京都文京区関口2-10-8
☎03(943)1111
G 藤田観光

- 大小23のご披露宴会場。
- 800名様までの日本料理・フランス料理着席ご披露宴。
- 庭園での記念写真も随時お撮りいただけます。
- チャペルの挙式もできます。
- 最新機能の音響・照明設備。



華やかな「宴」のとき。

只今、ご婚礼・ご宴会ご予約承り中。

桑野会からも、地元からも多数が参加され1,000人を越す盛会でした。

●受賞

◇小浜 精吾氏 (58期) は、5月29日「公正取引委員会下請取引改善功労賞」を受賞されました。

◇澤田 悌氏 (42期、本会会長)

◇佐藤潤四郎氏 (39期、ガラス工芸家)

両氏は、松平福島県知事より、「県外在住功労者知事表彰」を受けられました(11月25日)。澤田会長は元日本住宅公団総裁、佐藤氏は高名なガラス工芸家。共に各分野で大きな功績を残し、郷土ふくしまの名誉を高めたことによる受賞です。尚この度の表彰3人のうち東京桑野会から2人が最高賞に輝きました。

●訃報

◆真船 清次氏 (38期、日本鑄造(株)顧問) は、昭和62年10月25日逝去されました。葬儀は10月27日、横浜市の自宅に於いて行われました。

ゆく秋や 友の導師の 友の葬
安積中時代からの友人、伊藤仲男氏 (37期、元横浜市収入役) の句です。

導師とは山形県善明院の佐藤真保氏。

◆斎藤 信也氏 (43期、朝日新聞社社友、元論説委員) は、昭和62年10月31日逝去されました。

高田秀二氏 (42期) にはありし日の氏を偲ぶ文を寄せて戴きました。

◆市原権三郎氏 (元母校教師、千葉大名誉教授) は、昭和62年12月6日逝去されました。氏は昭和6年3月から10年3月迄歴史・地理の教師として奉職され、その後千葉大教授、千葉県教育委員長を勤められ、県の教育界に大きな貢献をされました。

青森県桑野会訪問

昨年11月、青森県桑野会の上野敏夫氏を訪ねる機会に恵まれました。

上野氏は、安積会上野病院の院長をされている方で、55期の卒業。病院の1階エレベーターわきには、あの国鉄で採用された旧本館のポスターが貼られ、会議室には校歌や写真等が貼られ、その安積熱や凄まじいものです。病院名までが“安積会”。

その上野院長が幹事長をされている青森県支部は、現会員27名。会長は吉田真吾氏。年一回総会を開き、それも昨年で15回だそうです。会報は、全員寄稿、会計報告、会員名簿等を中心に編集され、特に現会員の大半が寄稿されているなど充実したものとなっています。

上野氏は、安積についてその質実剛健を強調され、校歌にある“七州の覇と謡はれし…”のフレーズはたまらない、とおっしゃっていました。

また、当時の思い出について、特に英語教師の奥山先生のことを熱っぽく述べられていました。「奥山先生のあだ名は“坊ちゃん”。英語がペラペラだった。私は奥山先生を誇りにしている」と。

まったく、大先輩の母校熱の高さに圧倒されっ放しの訪問でありました。
(玄葉光一郎)

東京桑野会会報 10号迄の歩み

■会報は、会の創立時からの懸案でし

た。昭和56年12月に、石川照雄氏 (64期、常任幹事) の積極的かつ具体的な提案により、役員会で検討され、昭和57年4月に東京桑野会会報第1号を創刊することが出来ました。

■8ページでスタート、5号からは16ページ。記念すべき第10号は、皆様のご協力で2倍の32ページの会報にすることが出来ました。

■発行部数は4,000部、うち3,000部は会員へ配布 (各期幹事が分担して郵送)、1,000部は母校へ一括送付しています。


■発行時期は、原則的には定期総会開催通知を兼ねて、毎年4月。役員改選時 (2年毎) のみ10月にも発行の予定です。

■会報は実に多くの方々のご協力で出来上がっています。創刊以来寄稿された方々と協賛広告を提供された方々にお礼申し上げます。

延べ192名の原稿をお寄せ戴いた方および延べ141名の広告を提供して戴いた方、特に毎号に広告のご協力されている方には改めて感謝致します。

■1号から会報作りを支えて来た広報部のメンバー、なかでも創刊に尽力され基礎づくりをされた石川照雄氏 (64期)、若いメンバーをリードして来られた長谷川輝氏 (48期)、大森直道氏 (49期)、編集の頭脳と場所を提供してくれる桜井淳氏 (78期) の労に感謝します。

■現広報部スタッフは水口禎 (67期)、桜井淳 (78期)、大竹英雄 (79期)、丹治則男 (81期)、村上昌弘 (85期)、坂本浩一 (86期)、阿部力也 (94期)、玄葉光一郎 (96期)、顧問長谷川輝 (49期)、吉田弘俊 (52期)。(水口)



まさか!のために

- 安心を積立てて、教育・育英費用に
積立こども総合保険
- 安心に満期返れい金の楽しみも
フェイス(積立家族傷害保険)
- 6つの保険を1つにセット
自家用自動車総合保険

まさか!のために
興亜火災

相談役 **赤城海助**(第43期)

本社 〒100 東京都千代田区霞が関3-7-3
☎(03)593-3111(大代表)

ご挨拶

学校長 松田友吉

新しい年の昭和63年、1988年を迎えました。本校の歴史にまた一年を加え、104年の年輪を数える訳であります。巨木であります但其の枝葉花、果実そして全体の樹形をみても均齊のとれた素晴らしいものです。



現在、本校は101期、102期、103期生、1445名の生徒を擁する大規模校であります。103期生の第一学年は郡山市を中心とした県中地区の中学校卒業生数の増加により11クラスという未曾有の学級数になりました。ともかく安積二世紀へ向けての新たな、しかも記念すべき出発と申してもよろしいかと存じます。

文武両道を標榜する本校にとりましては、100%に近い生徒が大学進学を志向しておりますので、その希望達成のため渾身の努力をしているところであります。61年度末の大学入試の結果につきましては、62年4月、椿山荘での東京桑野会総会の折に申しあげました通り、100期生が群を抜く立派な成績を残しました。今年度卒業予定の101期生もまた先輩を凌ぐ好成績をと頑張っております。

加えて嬉しいことは、皆勤者（無欠席、無遅刻、無早退、無欠課）が昨年の145名を突破し160名位の数が見込まれます。これは学ぶ意欲の強さの表

われであり、今時このような高校は全国的にみても稀な存在であります。

県を代表する全国インターハイには、剣道、テニス、卓球の各部が出場し、それぞれ立派にその任を果しました。また合唱部が、全日本合唱コンクール全国大会で名誉ある銅賞受賞を果しております。演劇部も県代表として東北大会に出場して、優秀賞の栄誉に輝きました。そのほかの各部活動も、県大会等におきましては立派な成果を残しております。

次に、昭和63年1月8日発行の「安積高校新聞」の論説の一部を紹介いたします。

“自分の素質に磨きをかけるのは他の誰でもなく自分自身なのだ。人は一人一人全く違う光りを放つ、他人と同じ光には決してなり得ないのである。

業をしていてはよりよい明日はない。恐がっているは一步先も見えない。”このような立派な論説を掲げる生徒のいる本校は、「懿徳の花」のように永遠であることに誇りを持っております。

最後になりましたが東京桑野会のみまますのご発展と、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申しあげ、ご挨拶といたします。

ご挨拶

安積桑野会会長 阿部 博 (51期)

今回桑野会会長を仰せつかった阿部であります。柄でもないと思っておりますが、比較的閑職の故もあり、前会長



瀧田氏の命令にも近いお話しにより、会長となりました。大安積の同窓会の会長として、何が出来るか？ 自信がそれ程あるわけでは、ありません。然し引受けた以上は、出来るだけの事は、致したいと存じて居ります。

東京桑野会会報が、この度10号を迎えられるとの事、お喜び申し上げます。これだけの組織が出来、同窓の方々のノスタルジアを満足させて戴く御努力には、深く敬意を捧げます。桑野会本部が組織化されたのは、終戦後で、ありまして東京桑野会は戦前より組織化されて居り、その意味で東京桑野会は大先輩でもあります。私が東京商大予科（一ツ橋）大学に入学が決定し、上京したのは昭和14年であります。その頃、桑野会の組織が出来て居り、歓迎会を開いて戴き、年一回程度は、諸先輩の方々に何かとお世話になった思い出があります。

戦争が激しくなった一時期は活動が停止された事もあったとは存じますが、諸先輩方の熱い御配慮に深い感謝を覚えて居ります。

安積高も100年の歴史を過し3年目に入りました。然し我々として最も誇るべきは、福島より移転した最初の校舎が、その場所に現存している事であり、100年以上の歴史を持つ校舎が、その場所に現存するのは、日本で唯一であります。東京桑野会の方々も、隅々帰郷の折その状況を御覧戴き、昔の思い出に、熱き心になって戴ければ幸いです。私も東京桑野会の総会には、二三度参加させて戴きましたが、会員の方々が、深い母校愛と、深い友情に結ばれて居る御様子に感激し

安全日本一をめざして33年

石打丸山スキー場

スキー場東京案内所
03-256-8170

株式会社 日本リフトサービス

取締役会長 後藤憲平(25期)

東京事務所：〒101 東京都千代田区神田小川町1-8 Tel.03-256-8151
石打事務所：〒949-63 新潟県南魚沼郡塩沢町石打 Tel.0257-83-2222

た思い出があります。将来を考え過去の思い出にひたりながら我々桑野会特に東京桑野会が益々発展されん事を、お祈り致します。

(日産チエリ—福島販売㈱相談役
福島信用販売㈱監査役)

安積の思い出 について 竹花 栄明 (48期)

とき1988年、戊辰の年、あたかも今から一世紀前、1868年(明治元年)戊辰戦争、明治維新、平穩に見えるが、激動の年、東京桑野会会報第10回発行に当り、「安積の思い出について」送稿の依頼をうけ、「安積野」「アルバム」「安積高校新聞」等を机の上に置いて学舎で若人と過ぎし日を振り返ってみると、数々の思い出が走馬燈のように展開し列挙にいとまがないので、「安高新聞」第100号記念に「安積の生活思いつくまに」とペンを走らせたその項目からピックアップして再び投稿してみます。

1. 進路 昭和44年12月末頃の3年生の進路懇談の折に父親(商事会社社長)が、いきなり「自分の息子は東大文IIに入れる見込みがあるか否か率直に一言で」と禅の問答のようなきつい問いに「大丈夫」と透かさず応答したので「よくわかりました」と席を立たれて帰られたが、3月みごとに合格してくれたので面目を果たした。彼は家の周囲の清掃、打水と夜は家中の戸締りという毎日の務めを実行しているという。



この行動と更に学習態度からみて大丈夫と太鼓判をおしたわけである。教師は自分の学級全員一人一人よくつねに大乗的、立体的に観察し分析し情報をあつめておかなければならないと思った。

2. 応援団 昭和46年、野球新人県大会(若松球場)において、どしゃ降りの雨の中に一時間余も仁王像のように立ち、校歌、送歌、凱歌、紫の旗ゆく所等を大声で歌いまくり、額に紫の鉢巻きのあと、誰一人風邪もひかず安積健児の気焔をあげた。その帰途、太鼓を竹竿にかつぎ高下駄をはき腰に手ぬぐいをさげて行進していると年輩の婦人が「勇ましき高校生の姿よ」と感嘆した音韻が残っている。磐城でもそれと同じようなことをいわれたことがあった。

3. 授業態度 授業中瞬きもしないで、ぐっと説明を傾聴している生徒と視線があい彼らの理智に輝ける眼をみて進度につとめ、なにかの調子で瞬きをしたときはもう一度わかり易くそれを試み納得させる。しかし、このような生徒がいないと一時間中無味乾燥に終わり教材内容の取扱い方に創意工夫が必要かとドアを開け教室に入るのが恐ろしく、相馬御風の「今日もまた、明日も悟らず、秋の暮」の歌を自分にいいきかせていた。

4. 仮装行列 昨年安高創立103周年、紫旗祭9月全校生約1000余名の仮装のオンパレードが市内にくりだされ、それぞれ異彩を放ち、現代を風刺したものの、街の人々を笑いのるつぽにしばらく投入した光景をみて、85~90周年のそれと似たものがほうふつと、あの頃

の彼ら達とこの君達の容貌が二重に描写され感無量を覚え、85周年のとき、わが子の仮装姿(新選組)をはるばる石川から来てカメラにおさめた親達の姿があったが、今回も同様な場面にあい成程と勢揃への大仮装行列に教えられた。

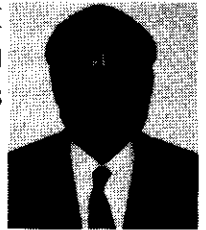
終わりに、安積魂即開拓精神をもって各地域で安積健児ここにありとその存在価値を遺憾なく発揮している皆さんのご健勝をお祈りします。

(日本女子工業高等学校講師)

昭和37年4月10日

吉田 弥 (59.60期)

私が、母校の教壇に立ったのは、昭和37年の春から昭和48年までの11年間である。健康を気にすることは全くなかった



30歳代の大半と40歳代の前半であった。私の母校での初めての授業は、旧本館の校長室の真上の教室であった。3年1組の古典で、教材は<枕草子>である。

短い自己紹介を終えて、授業を始めようとする、生徒の机の上に教科書もノートもない。生徒の鋭い凝視が私に向けられている。新しい教師に抱く好奇のまなざしとは、全く縁遠い。私には、教科書を準備しない無礼をとがめるほどの余裕はなかった。私は、ひたすら、<枕草子>の序段を読み進め枕の世界を説いた。

50分は、またたく間に過ぎた。生徒

騒音・振動・超低周波

- 現況調査 ○予測計算 ○防止対策計画
- 消音・防振装置の設計と製作
- 実績 エネルギー・運輸 金属・化学
電子・機械 繊維 機械 紙パ
自動車 造船 食品



東昌エンジニアリング株式会社

〒108 東京都港区港南2-12-26 港南パークビル

電話 03-471-5891 代表

代表取締役 鈴木健生 (第48期)

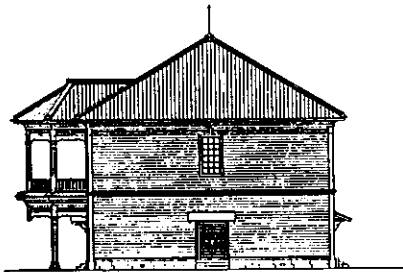
の凝視は続いた。私は、怒りをこめて、学ぶ者の無礼をとがめた。

ひとりの生徒が立ち、述べたことばは、次のようなことであつたと思う。<私たちは、皆で語り合つて、先生の授業が学びがいのあるものか、どうかを知りたかつたのだ。失礼は大変申しわけない。次の時間から真剣に勉強する。>

私が安積中学校を卒業したのは、昭和22年3月。大雪の日だった。卒業したとしても、明日がはっきり見えない時代だった。苦悩があつて、国語教師の道を選んだ。母校を卒業して15年目に、私は母校の教壇に立った。昭和37年4月10日である。最初の授業の思いがけない展開は、私に、学びがいのある教師の道の難しさを知らせた。正直なところ、どうにかスタートをきれたとの安堵感もあつた。

今も、あの出発の日を思いおこすことがある。母校の教壇は高かつたが、純粹で、志高い生徒に恵まれて、私も少しずつながら教師として成長させてもらった。私が出会つた生徒は、もう生徒と呼ぶにふさわしくなく、いい仕事をし、たくさんの人生経験を持ち、人間としての器も大きくなつたことだろう。その人たちに、今の私はどう映るか、気恥ずかしく思う。

(福島県教育庁高等学校教育課長)



校長時代の思い出

村上 啓正

東京桑野会が益々発展されておりますことお慶び申し上げますとともに、創立百周年によせられた暖かいご声援、ご支援に対し当時の学校長として改めて感謝申し上げます。



さて、私と安積の縁は昭和27年に、27歳の若さで赴任したことに始まります。戦後の混乱がまだ残つておる時代で学園も荒れておりました。今度くる若いのは元気があるから……と言うことで、3年のとつておきの組担任を命じられました。初めの印象が余りにも強く、40年近くたった今でも数名の生徒については名前とどの辺の席であつたかを思い出せます。その後安積ならではの数々の思い出にめぐまれ、本当に充実した13年を過ごすことができました。加えて、教員生活の最後の3年間を、教員としての私を育ててくれた安積に、学校長として再び勤めることができ、それだけに思い出はつきませんが、現在の安積を垣間みていただければと思ひ、校長時代の思い出を書いて見ます。

○校長新任式で応援歌を歌う

校長新任式なので格調の高い話をと十分準備して壇上に立ちましたが、感きわまり応援歌「紫の旗ゆくところ」を声高らかに歌ひ、競い立て安積健男児、奮い立て安積健男児、諸君ともに頑張ろうと叫んで壇を下りました。こ

のようなことは前代未聞のことだそうです。

○校長のアダ名を知ってるか

安積には年に一度「交歓会」と言つて、先輩10数名に檄を飛ばしてもらひ、安積の歴史や伝統を理解するという他校には例を見ない行事があります。その交歓会で先輩の1人(若き時代に担任した)が私の前で全校生徒に向かつて、君達は校長のアダ名を知ってるか!と大喝した。あちこちでシグマ、シグマ(Σ)の声あり、先輩もよーしと叫ぶ。若き時代の教え子たちの子供が沢山入学しており、アダ名を聞いておるからであろうが、質実剛健の気風がまだ残つておる安積であればこそと言えましょう。

○校内マラソン大会115位

安積の伝統行事である駅伝競争は続けるべきだと主張して譲ろうとしない生徒達を説得し、私も走るからと全校生徒参加の10Kマラソン大会に切替え、費用は学校負担でバス30台をチャーター、交通事故の心配ない東山霊園で実施した。折返し点中位いの順位に入れば全校生の半分と対面できるはずと、それを目標に生徒と一緒に走つた。結果は1300余名中115位で十分目的を達成した。このマラソン大会以後生徒の私を見る目が変わつてきたようです。この大会はその後も続いておると聞いています。

○創立百周年のこと

県下に先駆けて行われた創立百周年記念式典、並びに関係諸行事が大成功で終了、安積は二百年に向かつて巨歩を進めております。ここでは全く異例と言われた文部大臣の出席のいきさつ

営業品目

- 産業廃棄物の処理
- 一般廃棄物の処理
- 産業廃棄物の加工

市原不燃物処理株式会社

〒290 千葉県市原市五井2887 TEL 0436-21-6308

代表取締役 鎌田正二 (第43期)

等について書いて見たい。

文部大臣が地方の県立学校の創立記念式典に出席することは、行政的に見て不可能なことです。しかしながら早くから文部大臣の出席をとの声があり、先輩の佐藤参議院議員が、森文部大臣就任と同時に出席を要請、まだ白紙の手帳に予定を書きこんでもらったのが大臣出席の決め手となったようです。と言うのは後日私と佐藤議員が文部省に大臣を訪ね、正式に出席をお願いしたところ、大臣が手帳を開いて、この通り日程はとってあるものの文部省サイドでは出席する理由がないので無理だとのこと。色々話しているうちに、安積高校生との対話を通し地方高校の実態を知ることができるので理由も立とうと言うことになり、当日大臣は1時間30分にわたる式典に臨席され非常に感激されておられました。式典後思索の森で約90分にわたる「安高生と文部大臣との語る会」は終始和やかにしかも真剣に行なわれ、共通一次問題や教科書問題など、核心をつく質問に大臣は身をのりだして説明、答弁をすると言う具合で大成功に終わることができました。

後日御礼に文部省に大臣を訪ねた折、わずか半日であったが、自己を高めようとする安高生のすがすがしさに非常な感動を覚え、地方にこのような学校があることを知り教育改革に自信がもてたと最大級のお誉めの言葉をいただいたことを紹介し筆をおきます。

(日本女子工業高等学校)

三澤敬義のこと

三澤 薫子

東京桑野会会報が、このたび10号記念を刊行とのことで、このような機会に、夫三澤の思い出など何か書くようにとのお言葉をいただきまして、まことに光栄に存じます。



今は昔のことですが、三澤は、安積中学の26期生で、東京桑野会の第2代の会長に推されましたのは、昭和35年頃でございます。当時よく後輩の人たちと、安積中学校の思い出話に花を咲かせておりました。

三澤は、郷里を、そして安積中学校を、こよなく愛しておりました一人でございます。

先頃たまたま、三澤の机の引き出しに、安積高校創立75年のさい、あいさつ申しあげた祝辞のメモを見つけました。

「子供のときは虚弱であったが、桑野のこの校舎まで毎日通学したため健康になれて、今日のお祝いにも出席できた」といったことなど書いてありまして、昔を懐かしく回想いたしております。

三澤は、東大物療内科、同付属病院から、同愛記念病院に務め、そのあいだ研究と診療の多忙な明け暮れでございました。

しかしいつも、天真爛漫と申しましようか、多くの方々との温かな交友

を楽しみ、童心を失わず、生涯を誠実に生きた人のように思います。

若い方々には、「患者さんの現在の病状より、少しでも楽にしてあげるよう勉強しなさい」と、いつも言っておりました。ご一緒した方々からは、よく「先生との旅は弥次喜多の膝栗毛の実演のようで、楽しかった」など申されたりしました。

ネクタイがうしろに回っていたのを、締め忘れたと思ってもう一本締め、前と後ろにさげていたというのは有名な話になっています。

講演の前に資料を調べていて、演壇に立とうとしたらメガネがありません。助手の方のありません。大騒ぎで探したら、自分のポケットにふたつとも入っていて、大笑いになったそうです。

何かに集中すると、ほかのことはすっかりお留守になってしまうのです。そうしたユーモラスな話題をたくさん提供してくれた人でございます。

私ども古きよき時代には、安積中学校と私が学びました安積女学校の通学路が、まったく別で、安中生が女学校通りを歩いたりすると、注意されるという話もあったほどですが、現在は、部活動の応援や行事なども、ともに仲よくされていると伺っております。

安高と安女には、創立期のころから何かしら縁があり、様々なところで強い結びつきがあるようです。今後とも、どうぞ安積女子高等学校のことを、お忘れなくご指導たまりますように。

桑野のみなさま方のご健勝と、各界でのますますのご活躍、ご発展のことをこころから願っております。

(安女同窓会東京支部長)



五十嵐冷蔵株式会社

(冷蔵・冷凍食品・低温運輸の総合エンタープライズ)

FROZEN
FOOD

〒108 東京都港区芝浦2-10-5
TEL 03(451)1111(大代表)
テレックス242-4442
東京桑野会会員 専務取締役 吉田弘俊(第52期)

自慢話、三つ、

柳沼 彌重 (46期)

名物先生とおだてられて思い出話を書いても空しく思うだけである。同じ事なら老人らしい自慢話をするにしたい。先生としての仕事は給料を貰っているから自慢話の種にしてはならない。縁あって母校につとめ、成行上やった事で他からみれば大したことでないが、少々手柄とと思っている三つを書く。

酒席で周囲を煙にまく類いの自慢話は愛嬌があって、面白いのだが、文章にかかれた自慢話は面白いものが少ない。

過去に生きるしか術のない老人が、沈黙の美德を現代風に無視し、損にも得にも害にもならぬ自慢話をするを許されよ。

自慢話 その一、校章、私の勲章、
昭和23年6月に校章制定の具体的な動きが始まった。生徒作の桑の葉3枚の台座に高の字の入ったものを基本として、職員会で検討。古い先生方の多くは、高校になったのだから桜花は不要で図案通りでよい。白線も不要との意見であった。然し、17、8名の安中生活をした職員は高の字は不要、代わりに伝統の桜花を入れよ、白線は残せと主張し承認され、桜花挿入は美術の水田先生(38期)にまかされた。昭和30年代に水田先生は晴れて一水会会員に推薦されたので美術クラブOBが祝賀会をもった。席上、私は校章制定経過を話し、特に安と桜花を結びつけた見事さを讃えた。話が終わると、先生は

発言を求められ、「桜花を入れる用意をまかされた時は困った。会議が終わってスグ柳沼さんが安は桜花になるといって原形を示した。それで柳沼さんの創作である。」と話された。今当時のOBはこの話を忘れていたろうから、証人はいない。

すっかり忘れていた事であったが、度々ふりかえっているうちに、会議直後に当時の粗末な紙に安の字を桜花のようにかいて、先生にみて頂いた事を思い出した。尤も完成された図案ではなかったため、水田先生なくしては現在の見事なものはある筈はない。それでも、安の字の桜はそれ以来私の勲章になった。

因みに、3色の学年襟章は小ボロこと吉田治郎先生(56期)の作である。

自慢話 その二、やっこさで桑野会員になった。敗戦後の数年間、校舎は本館を除いて他は雨天には教室内でも傘をささねばならぬ程に荒廃していた。昭和24年4月就任の栗原校長、26年4月就任の加瀬校長は改築に精根をかたむけ、理科教室を含む夫々に8教室2棟が、転任後に新築された。場所は戦前の博物、鉱物、物理、化学教室のあとである。今、一は全面改築で、一は火災で消えている。

費用は県費1/2、地元負担1/2と記憶している。後者は地元市町村、PTA、桑野会の寄付金によった。職員も寄付をしたが、当時桑野会員であった職員は他の職員より高額の寄付をし、私は中退者で会員でないのに前者の組に入れられた。そこで2回目には私の名が桑野会名簿にないのに校内会員並に扱われるのは不満である。この際、「安積

に在籍した者、及び在職した者」として欲しいと、武知先生と重箱こと椎野先生(40期)を通じて桑野会に申入れをして、現在の会則になった。他に類をみない会則であり、多くの中退者は喜んでゐる。又、新入生からは入会金、会費を徴収できるので、5千円を収めて貰っているから、運営費に大きな不安はない。然し親達の一部には不満に思っている人がある由。

自慢話 その三、旧本館は私の宝物である。昭和41年頃、新谷校長(38期)は理数科設置を手段にして理科教室の新築を中核とした全面改築を企て、最終的に理科担当の私に全構想を作るように命じた。

私は本館は絶対にとり除かぬことを基本とした。校長は、「本館を老朽校舎として廃棄すれば新築補助金2千万円が入るが、本館は恐い存在物だから手をつけるな。」と賛成。校内幹事は勿論、その他の職員全員、大多数の生徒は積極的に保存賛成であった。但し将来の保存管理の費用等からみて文化財としての価値を然るべき筋に認めさせねばならない。そこで建築史的価値、西洋文明の怒濤の様な移入期の記念物としての価値、明治前半の学校建築の典型としての価値等について、つぎの3人の専門家に質問した。一級建築士岡野六郎氏(PTA役員)会田圭三氏(42期)佐藤彌氏(53期)である。お三方何れも、貴重な建物であり当然保存せねばならぬ。自信を以て仕事をせよとの返事を下さった。

安積で学んだ人々の心情を思い、更に大切なことは生徒の目前で貴重な文化財をとりこわすような非教育的な行

索道施設の総合設計施工管理

豊富な経験、最新の技術、万全のアフターサービス

東京索道株式会社

本社・工場/横浜市金沢区鳥浜町12-9

〒236 ☎045(774)7111(代)

札幌営業所 〒062 ☎011(812)0467

代表取締役社長 横尾 稔(第66期)

- ゴンドラ
- スキーリフト
- ロープウェイ
- ケーブルグレン

為は絶対になすべきではないと思いがらその後の仕事をすすめた。

保存するには、桑野会の主体的活動が必要なので、副会長以下有力役員7、8名に池田卯吉氏（38期）宅に集まって頂き、本館はそのままだとしても改築できること、文化財としての価値と多数の桑野会員の心情と生徒に対する教育的影響を力説して、桑野会として保存に努力するという保証を頂いた。会長は病気のため欠席。

私は自分で西防風林を簡易測量し、校舍配置図を作った。正式の図は岡野六郎氏を中心となって前記お三方により作られた。学校からさし上げた薄謝はそのまま学校に寄付されている筈である。昭和44年4月それまで延期されていた私の転任が永年勤続の理由できまり、桑野会総会で保存が決議されていないという不安を残したまま一切を稲田先生（42期）に託して転出した。同年5月（？）に保存のための臨時総会がもてるときいて、稲田先輩に予想を聞いた所、議長が保存を提案し、有力会員数名が声をあげる手筈になっているとの事であった。それでも一抹の不安があったので当日職場から会場に直行した。会長病気のため、某有力先輩が議長となり、「本館を保存するとすれば、桑野会としては重い責任を負わねばならぬ。老朽校舍としてとりこわせば改築に2千万円が入る。」という保存反対と思われる意見つきで議題を提出した。きいていた事とは全く反対である。議長たる大先輩は大きな影響力をもつ人であるので、逆らうわけにはいかぬと思ったのか、或は虚を衝かれたのか、一同は暫く沈黙してしまっ

た。私はこのままでは、保存は不可能。ひいては反教育的行為が生徒の前で行われ、且は誇り高い桑野会のかなえの軽重を問われ、更には私の宝が奪われることになるかと恐れたので、発言を求め、本館の価値、再建はできぬ事、生徒の前で反教育的な行為はしてはならぬ事を力説し桑野会員の心情に訴えれば、桑野会の名誉と力と郡山の財力とから保存は可能であり、保存すべきであり、2千万円で魂を売ってはならぬと会員によびかけた。幸に若い会員達が先じて賛成し、保存に決定した。横井嵩君（高5）の声が大きかったようである。

百年祭に参集した数百名の会員は保存してよかったと心から思ったろう。百年祭の当日、神山春生氏（53期、役員）は、私にあの時柳沼さんが発言しなかったら、今本館はどうなっていたらどうかと話された。勿論私の発言だけで残ったとは思わない。あの総会で決まらなかったら、後日には保存と決まっていたら、神山氏の言葉はありがたい。それにしても今以て議長の真意は分からない。責任重大だぞという警告ではないかと善意に解したい。その後国の重要文化財に指定されるまでの苦しい仕事には、私は立場上かわわっていない。

2、3の蛇足をつけ加える。一、改築計画は教育庁では承認されたが、木村知事により拒否された事、知事は本館をとりこわして補助金を得ようとしていた事等を実際にその場に居た稲田先輩からきいている。二、幸に理科棟は90%程要求が容れられ、13教室をもっている。全国的にみても高校レベ

ルでは例がない程のものである。理科棟の設計と施工については当時の理科の先生方の苦労は大変なものであった。施工時には私は安積にいなかったが、兄久彌（42期）がPTAとして国立病院建設の経験により、工事指導に当たった。兄弟で理科棟建設に関わったのは奇縁である。三、私は改築構想作製中に本館とりこわしを画策しているとの誤解を受けて正月草々有力先輩に自宅におしこまれた事がある。又逆に本館保存に金を出すのは不経済と某医師に同様におしこまれたこともある。後輩や昔の生徒に多くの機会をとらえ保存すべき事を説き、寄付するよう要請した。若い会員に「あのような金食い虫を残して今後もちきれるのか。」とよく言われた。私しの答弁はきまって「僕は君達より先に死ぬから先の事は関係ない。君達がけちらずに金を出せば安泰である。」という言葉であった。

最後になるが、始めて本館が文化財であることを広く示されたのは、故津口信男校長と現東北工大の草野氏である。あらためて敬意を表する。



柳沼重作

有利さて選ぶなら

中期国債ファンド

1 カ月複利の効果で
いつでも一番有利



借成証券

本社 東京都中央区日本橋兜町13-2
☎ (666) 1431 (大代表)

取締役企画部長 近内靖夫 (第69期)

座談会 『甲子園への道』

〈出席者〉 近藤金弥 (恩師、元監督) 撞井保夫 (51期)
竹花則栄 (55期) 野田 広 (66期)
遠藤直樹 (96期)

1月23日 於：東京・目白「椿山荘」

司会 水口禎 (67期)

——母校を甲子園へ。それは私たち卒業生の一致した願望です。本日お集まり願った方は、あと一步で“切符”をのがしたOB、あるいは縁浅からぬ皆さんです。思い出や体験を話していただいて、現役球児の後輩たちへの誌上激励とさせていただきますと思います

撞井 私たちのころは、隣にいらっしゃる竹花さんのお兄さん、竹花禎三投手を擁して再三東北大会に駒を進めたのですが……

近藤 県では言うに及ばず、東北に竹花ありと言われた投手でした。

*昭和13年、山形中に惜敗、当時の新聞は「竹花の左腕より繰り出す速球とドロップに山形中の打者振るわず」と讚えた。竹花投手は安積卒業後、仙鉄、華鉄で活躍し、一試合平均十本以上の三振をとり、「驚異の豪腕」と評された。

竹花 5尺8寸、当時としては大層大きかった。クラスで一番でしたね——お兄さんに負けずに、とは？

竹花 ええ、私が安中に入ったとき兄は5年でした。野球部に入ったら後で「オレが卒業してから入れ」と言われましたね

撞井 竹花投手とは同級生でしたが、文武両道の中学生でした

——今のプロ野球や大学野球からのスカウトもあったでしょうね

竹花 茶の間のテーブルに札束が積ま

れて、兄と両親がスカウトの人と話しているのを隣室からのぞき見したのを覚えています

——中学野球に安中あり、だったんですね。戦争をはさんで、野田さんたちの時代を迎えます。二年連続県大会優勝でした

野田 26年には東北大会の決勝で福商に1対4で敗れました

近藤 準決勝では今、巨人の皆川コーチャ投げる米沢西を13-0、ペチャンコにやっつけたんですよ

——私もよく覚えてます。惜しい試合でした

近藤 ところがね。野田君、今だから言うけど、実は勝てない理由があったんだよ

遠藤 力の差がわかったた、とか？

近藤 いやいや、審判なんだよ。前夜ある関係者にいわれたんだ。「安中は勝てんよ」って。審判は相手チームに招待されて温泉に入っているというだなあ——判定に影響したんでしょうか

近藤 野田君はアウトコースぎりぎりに投げる。ところがアンパイアは全部ボール……

野田 力がなかったんですよ。体が重くないもので、スタミナ切れですね

*県内では無敗といわれ、県外。有力校から招待されて各地に遠征。豊田泰光選手(元西鉄)の水戸商戦では豊田選手に三塁打を一本打たれたものの、あとはピタリと押さえた。明大へ進学後も抜群の制球力と鋭いシュートで活躍した

——福商に敗れ甲子園の夢を絶たれた30年後、安高は再び同スコアで福商に敗れました。その時のメンバーが遠藤さんですね。

遠藤 56年の夏です。安高は第2シードでしたが、当時の第2シードは1、2回戦で負けるというジंकスがありまして……

——それが決勝まで行った？

遠藤 まさかと思った決勝進出でした。そのせいか、敗れてもナインも意外とサバサバというか……



なつかしの卒業アルバムに見いる野田広氏(左)と近藤金弥先生(中央)。先輩たちの勇姿をのぞき込むのは遠藤直樹氏



株式会社

渡辺電務社

電気設備設計施工

本社 東京都江東区三好1丁目1番2号
電話 東京(641)0136番(代表) 千135
千葉営業所 千葉県千葉市都町2丁目5番1号
電話 千葉(0472)(31)9287番 千280

取締役社長 渡辺豊定(58期)
(旧姓沢村)
取締役副社長 土屋七郎(57期)

撞井 遠藤さんの時には一県一校でしたよね

近藤 昔より楽じゃないの(笑)

遠藤 でも、選手の集め方とか設備とか、また違う大変さがありました

*56年、安高は初戦、今春甲子園初出場を決めた福島北を3対1で破り、遠野、勿来工、白河、棚倉と連破して決勝へ駒を集めた。遠藤さんは現在、武蔵大のサード四番。昨秋は打率0.304でチーム一の成績を残した

野田 安積の伝統は素晴らしい。だが、それも「決勝戦」までの伝統だ——是非、甲子園へのカベを打ち破ってほしい。甲子園へ行くためには何が必要なのでしょう

遠藤 中学で野球やっても、安高に入ると入部して来ない人が多い。そういう新入生を勧誘しなくちゃいけないですね

——優秀な中学生を集めるという訳にはいかないから、真剣に素材を発掘するということですね

遠藤 それと、物の面ですが、グラウンドが余りよくない。傾斜があって、雨が降ると水が一方に流れて来るんです

野田 そうです。グラウンドは固い。けがをしやすいし、早くなんとか、といつも思います

竹花 整備とか、桑野会でも何か応援をできないものではないでしょうか

遠藤 せめてダイヤモンドだけでも、土を入れ換えれば……

竹花 東京桑野会に、その力はないが

近藤 同窓会からの申し出があれば、県としても整備費を認めてくれるのではないだろうか

撞井 甲子園出場が成れば、相当な金額が集まるだろう。そのためにも

——そうですね。母校の甲子園出場は、私らの夢でもあり、是非果たしてもらいたいものです

遠藤 後輩には「欲をもて」と言いたい。僕らもそうでしたが、「甲子園なんて無理」とはなから思っちゃ。目標を掲げてどん欲に!

近藤 技術的には、野球は腰です。下半身を鍛え、基本であるキャッチボールをしっかりやって、ですね——高校によっては、教職員以外の方が指導しているところが少なくありませんが

野田 私個人としては、今勤めている会社を60歳で定年になったら、郡山へ帰って野球を教えたいという気持ちをもっています

——野田さんは東京六大学、そしてノンプロで活躍した。その野田さんが指導してくれるというのは大変うれしいことです

野田 僕らのころは自己流でやってた面が少なくありません。明大の一年上に秋山登、土井淳さん(ともに元大洋)という黄金バッテリーがいた。そういう経験を踏まえて、大学生のとき、安積のコーチをやったことがありましたし……

撞井 短期間では成果もね。でも、長期的にじっくりやってもらえれば



第一期「黄金時代」を語る竹花則栄氏(右)と撞井保夫氏(左)

……。甲子園への夢がふくらんできますね

——皆さん、野球に熱い思い入れがあります。そして、心残りも同時にあります。勝つことが総てではありませんが、ぜひ甲子園の土を踏んでほしいものと思います

撞井 私たちも、できるかぎり応援したい

近藤 そして甲子園のスタンドで応援したいですよ

竹花 私は二年のとき(昭和14年)、戦争で野球部が廃部になった。今はこんなことはない。後輩のがんばりに期待したいと思います



「学生野球の神様」飛田穂洲氏から斎藤信也氏へ贈られた色紙

秋津冷蔵株式会社

代表取締役社長 結城 洸 (55期)

本社: 〒552 大阪市港区港晴5-2-60 電話 06-571-7265(代表)

東京事務所: 〒100 東京都千代田区丸の内2-1-2 千代田ビル530号室
電話 03-216-2738

東京桑野会囲碁 同好会に就いて 高橋 勇夫 (44期)

去る一昨年の東京桑野会の幹事会が上野池の端会館で開かれ、不肖私もその末席に列した折、事務局ならびに沢田会長の談話の中に、斯会の飛躍発展に各幹事の協力が要請されました。

私も常々総会に出席して思うのは、会員の数の問題ではなく、半世紀の年代差に拡がる人間像の心の繋がりを如何にすべきか——一年に一度会同し、飲み会って別れること自体も否定はしない迄も今一歩進歩的な人間同士の心の広場を多角的に拡げ、これが枠の拡大となり同窓生と云う公約数の中で老も若きも結びつき、明日への飛躍の核作りたいと願った矢先なので幹事会の席上私は提言して囲碁同好者を募りました所、沢田会長初め10名程申し入れがあり、大変意を強く感じました。メンバーの中で昨夏逝去された東京索道社長横尾正七郎氏は日本棋院4段の腕前であり、囲碁同好会のリーダーに推奨と思いましたが亡くなられて本当に残念です。

紙上を通して、心から故人の御冥福をお祈念いたします。私も秋から胃潰瘍と黄疸病の併発で再度の手術で意に叶わぬまま一年過しましたが、昨年9月25日東京桑野幹事会が開かれ、漸くの思いで参会しました。この時も改めて、東京桑野会の助長進展の一助となればと敢へて囲碁同好会結成の具体化を提言し、会長からも激励の言葉もあったので、更に決意を固めた次第で

した。昨年晩秋11月1日第1回囲碁同好会開催の旨を幹事有志に案内状を差上げました。

態々土屋幹事長も多用の中会場に会場されました。メンバーは名誉五段の沢田会長、日本棋院四段58期山本進さん、65期初段の川井栄一郎さん、75期参段格永井康友、今川直人の両氏、そして不肖2段の私の6名でした。

会場は東京八重洲国際観光ビル5Fに日本棋院八重洲支部予約席で行われ、みんな仲よく3席向い合って対局しました。沢田会長は棋風も剣道の達人並のさばきでした。若手の永井参段が迫力ある若さ溢れる棋風で強さを発揮されました、初の碁会なので勝負にこだわらずに和気藹々の中、4時間交互に対局、充分に碁の醍醐味を満喫しました。引続き同館地下の椿山荘で夕食会を開き、対局談や余談に花を咲かせ、次回の対局を約して閉会しました。この会席で永井氏、今川氏は同期生で20年振りでの再会だったとの事でしたが20年の空白も同期生、同窓生と云う心の結びが碁会裡に融合する人間関係それは現代社会に誰もが求める心の灯であり命の糧ではないでしょうか。

囲碁同好会を契機として更に踊りの会、茶の会、絵画、書道の会と輪を拡げ各様各式に結ばれる時こそ安積桑野会は名実両存する大集合となるに違いないと思考する次第です。

更に附言すれば各幹事も多忙の傍ら、同級生との人間関係を深め、喜び悲しみ、楽しみを共にしてやがて交友の場を進展拡大して21世紀への大東京桑野会総会を期待しようではありませんか。

(元、日本鋼管㈱労務部係長)

仏像について

佐藤 静司 (45期)

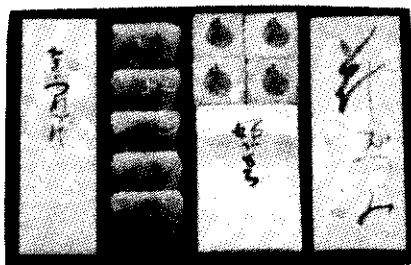
我々日本人の物の考え方には西洋文明におけるキリスト教と同じ様に政治文学音楽美術など総て仏教によって日本にもたらされて来たものですから無意識のうちに仏教思想が根本にあります。しかし日本人の仏教に対する宗教感覚はむしろ無宗教に近い形の様で、その様な日本人である故か私達が生活に心のゆとりを慫したり感じたり又は心に悩みなど生じた時に良い仏像にめぐり会うと心に安らぎや、やさしさ、なごやかさを感じるのです。その時に美しいと感じそれが私達を仏像に引きつけるのです。

彫刻家の私は明治時代に西洋彫刻が日本に導入される迄の日本彫刻の源泉である昔の素晴らしい仏像彫刻を若い時から見る様に教えられ裸体彫刻のかたわら勉強もして来ました。始めはどちらもよく判りませんが度々みると自然におぼろげながら判って来た様です。先入感を持たずに身体で感じると云う事でしょう。

百濟より日本に仏教伝来したのは古墳時代の538年ですが、紀元前565年に印度に生れた釈迦が仏教を興してから470年程後に始めてパキスタンのガンダーラに釈迦が仏像彫刻として表現されました。それは多分にギリシャ彫刻の影響を受けた表現です。それが印度を経てシルクロードを通り北魏時代に敦煌長安洛陽を経て北上し雲崗高句麗新羅百濟を通して日本に伝来された

和菓子司
銀座 三万石
銀座店/東京都中央区銀座六丁目四番八号
TEL (03) 5751-0007 午11:00-4

◆銘菓撰詰合せ……………三、五〇〇円
花かみ一本、塩まん、四角、柿もち、一箱
奥州まんじゅう五個、和菓もち、一箱



おいしさ多彩に
和菓子司銀座三万石の
銘菓撰詰合せ。

のが飛鳥仏となります。天智天皇の日本軍と百濟軍が白村江で唐新羅の連合軍に敗れてから洛陽より統一新羅を経て日本に伝来したのが白鳳仏の原点となるのです。唐様式と新羅のナイーブなものがミックスされそれが日本に来て温雅典麗な表現となります。

奈良薬師寺の三尊仏や石位寺の石造三尊仏、深大寺の薬師如来等が代表作です。

奈良の都に唐の文化が直接入る様になり国の政治に係る所として寺が多く建てられ仏像も多く作られる様になったのが天平仏です。個人の寺が建てられるようになるのは藤原時代に入ります。

この様にして仏教は印度でヒンズー教と交わり中国で儒教とかかわり日本では神道と交わって東浸して来ました。仏像は印度中国では砂岩、韓国では花崗岩、日本では木材と云う様にその土地に産出する材質が多く使われ、それによって表現も変化して来ました。

806年に空海が唐より帰ってから仏像も種々と宗教上の形式のきまりが出来始めました。私は藤原時代以降の教義にしばられた仏像よりも本当の意味の宗教の心に重きをおいた天平以前の仏像が好きで、その様な気持で仏像を制作しています。私は仏の慈悲とは代償を求めぬ愛と思います。母が子に対する愛にそれを感じ度々母子像を作ってきました。作品には作者の人間性が出ますから権勢慾や物慾を抑えて人間性を高めるより道は有りません。どんなに技巧や造型的にすばらしくても人の心を打つ事は出来ません。仏像は見るのではなく心で対話する事によって見る人に潤いを与えてくれるものです。(彫刻家)

遠藤實国連局長

を囲む会

宇田川 保夫 (64期)

(旧姓本田)

あつまりて、

さくら咲くころ

かたらばや 玉 令

かれこれ40年前、沖ちゃんこと、菊地沖之助先生から卒業記念に一筆したためていただいた名句である。

在京64期生は、高校第3回卒業にちなんで東京三桑会なるものをつくって親交を保っている。

昨年8月、この東京三桑会のメンバーの一人、遠藤實君が国連局長に栄進されたが、その際同期の数人が集まり同君を肴に集まろうという話になりました。早速準備にとりかかったが、63期の先輩からも早くやれと激励を受けて、10月9日、同君を囲む会を開催することができました。

前述の経過により、63期、64期が中心となり開きましたが、東京桑野会澤田会長をはじめ、同会役員多数の参加を得て誠に盛大に開くことができました。

これも、文頭に紹介しました菊地先生の名句が結びつけたわざかも知れない。幹事の不手際にも拘らず多数参加いただきましたことを改めてお礼申しあげます。

昔話になりますが、昭和24年に新学校制度が実行されて、我々と前後1年は、否応なしにあさかに6年間学ぶこととなったわけでありました。従って、1年先輩と1年後輩の諸兄とは都合5年間生活を共にしました。今回の囲む会が盛大に行なわれたのもこのような背景があったからか

も知れません。

現在の中学、高校のようなぶつ切り制度に比べると全く幸であったように思われる。

我々のあさか時代は、金ボタンの学生服を着ている者は少なく、多くの学生は、国防色というモスグリーン色の戦闘帽と軍服、下駄ばき、雑納と称するカバンを肩にかけという、今なら丁度ミリタリー룩でした。

遠藤君も例外ではなかった筈であるが、ジェネラルの父君を持つ彼は、上等なミリタリー룩だったそうである。

また、彼は音楽的知識を持っていたそうである。同期の郡山のベートーベンと自称していた浅見君(現大妻女子大音楽教授)がその水準の高さに頭を下げたと公表する程でした。彼は、生れ乍らにして芸術的素養を持った外交官だったのかも知れない。

昨今、複雑な国際関係の中で、日本の将来がどうなっていくのかは、国連局長である遠藤君の双肩にかかっていると思います。健康に留意して頑張ってください。

同君は、いかめしい役職ではあるが、気さくで勇気ある男で、およそ外交官らしくないあさかの紳士である。

何かにつけ、ご意見を求めるのも良いと思いますが、併せて激励をお願いいたします。

再び、あつまりて、さくら咲くころ、かたらばや

最後に、本囲む会開催に当っては、椿山荘支配人竹花大先輩に多大なる御世話になったことを述べさせていただきます。

(ファーストクレジット)

株式会社 東京シンクサービス

●業務 特許公報の抄録・翻訳、工業技術の指導・調査

●特色 高齢者の雇傭

(全従業員の91%が60才以上、70才以上は54%)

〒101東京都千代田区内神田2-13共同ビル
電話 (03)254-5805

代表取締役 鎌田 正二(43期)

母校を想う

武藤 節義 (67期)

卒業証書を手にして、あの洋館造りの安積高校をあとにしてから早いもので30数年を経た。阿武隈山地の僻地から出てきた私の目には安積校舎の威容は学問の殿堂に相応しいものに映じたが、先輩が窓枠に跨り当時流行の「トンコ節」を高唱しているのを見て妙な安堵感を覚えたことを記憶している。

大学に進学してから、偶然に取った西洋法制史の講義に身の震えるような感激を覚えたが、その担当教授が安積の先輩である寺田四郎先生であることを後から知り、母校の偉大さを改めて実感したものである。

安積高校創立百周年を前にして、数十年振りで母校を訪れたが、在学中と一変していることに驚かされた。

空き腹をかかえながら徒歩通学を強いられた沿道は、桑田変じて蒼海となるの譬ならぬ桑田変じて家並となり、緑豊かな田園風景は瀟洒な住宅街となっていることに昔日の感を深した。

そういえば、在学中の安積高校は、安積動物園とも称すべきであって、多くの珍獣が学内を彷徨しており、数学の「ヤマアラシ」(室根先生)、物理の「電気ナマズ」(渡辺先生)、生物の「マンモス」(山浦先生)、世界史の「カップ」(安田先生)、国語の「海坊主」(牧田先生)など古代の生物から世に例を見ない怪物が我々悪童の際限もない悪戯にも絶えず温顔を以って接して下

さったことを昨日のように思い出される

3年生の秋、何時ものように午後の授業を抜け出し、数人の友人と正門を出たところで、その名も高い生物担当の「野獣」(柳沼先生)にたまたま見付き大咆哮を浴せられ、向い寺の境内に一目散に逃げ込んだことなど、今は懐しい思い出である。

在学中で一番のたのしみは、何と云っても弁当であった。生徒の殆んどは徒歩通学であったため、それだけでなく食欲旺盛の年頃であるから、昼休みまで我慢ができず、早弁と称して2時間目の休み時間になると早くも弁当を平げてしまう者が少なくなかった。或る午前中の授業時間に、早弁をした同級生が英語の教科書を忘れ、先生の指示で隣の席の者に教科書を見せて貰うため机を寄せたはずみに、今たばばかりの空弁当箱が先生の前にランラン音も高くころげ落ちて、室内の大爆笑をかったこともあった。

高校時代の思い出を辿ると、本務である授業のことなど一向に記憶になく、友人との交遊や失敗談などばかりが脳裏に止まっているが、同級生の多くが優秀な成績で大学を終え、社会に出て活躍している現状から見れば、母校の自由闊達な校風は、よく人材を養成するものであったことを知り今更ながら深く感謝の念を新たにしているものである。

(東洋大学学生部長
法学部教授 弁護士)

バヌアツ便り

石川 英世 (57期)

拝復 10月13日付御書状正しく拝誦致しました。尚又同封の東京桑野会名簿並びに会報第9号併せて御送付賜り厚く御礼申し上げます。

早速楽しみに閲覧させて戴いておりますが、3頁の会員動向にて大兄の御兄上様(武夫様49期)が御逝去されたこと、心よりお悔やみ申し上げます。武夫先輩には私の長兄、石川一(48期)の1年後輩であったこと、大兄と私が又1年差とは何かの御縁と思います。

多分武夫様と石川一とは知り合ったことがあった事でしょう。名簿48期に記載されていて、次回の東京桑野会にも長兄が出席される場合、何卒お話しして下さい。

さて、当地は11月に入り、毎日29、30度の暑さであります元気勤務して居ます。

今月中旬頃、ソコマヌ大統領夫妻、アンドリュウ・ムンロー氏とも面談の予定であります。

大兄には多忙のところを桑野会の御世話、又バヌアツ関係業務等手広く活躍されて居ることを力強く期待して居ります。

敬 具

石川 英世 拝

星 武典 大兄

1987年11月3日

バヌアツ、サントより

(南太平洋水産取締役総支配人)

公認会計士 星 武典 事務所

〒101東京都千代田区神田錦町2丁目5番地(KSビル3F)

TEL(03)291-8361 FAX(03)291-8465

星 武典(58期)

安中を卒業した頃

佐久間 盛政 (54期)

私達54期生が卒業したのは昭和17年3月7日でその前年12月8日に大東亜戦争が始った頃でした。

浪人生活に入って間もない4月の始め頃、夜私の家に5年の時担任であった田村先生(現和洋女子短大付属高校長)が訪ねて来られ軍需工場からの徴用令は返して明日富久山町行健国民学校へ行くように、又同期の大越君も一緒であるからとのことで翌日学校へ行った。

私は5年の早生まれの組を受け持った。教える立場になって無我夢中で過ごした1学期の終り頃、役場から夏の賞与を支給したのに未だ挨拶に来ない先生が2人いるとのことで大越君と役場へ行ったところ、助役、収入役のいる前で町長から1月も経った今頃来るとは何事だと説教された。

余りがみがみ言われたので私が先程から謝っているのに町の財政から支出されているのに自分のポケットマネーから出しているようなこと言わないで下さいと言ったところ再び怒鳴られた。それから、我々が学校へ帰る頃には役場から連絡があるだろうから1学期ももうすぐ終わりになるので辞めようと話合った。退職願を持って校長室に入ったら案定役場から連絡があったので一部始終話して退職願を出したところ校長が賞与を貰った時すぐ役場に行くように言わなかった私も悪かったと言ってその場で退職願は焼却された。

夏休みに入り行健学校で安積郡の助教の研修会があり、夏期の賞与は我が富久山町が最高に良かったことがわかった。

その後も若気のいたりでいろいろあったが翌年3月末無事退職することができた。

翌4月大蔵省税務講習所(現税務大学校)に入ったが当時講習所の学務主事として故今泉兼寛先輩(37期)が居られ再び学ぶ身となった。

(税理士)

黄 昏

浜崎 洋光 (66期)

昭和28年に、安積の校門を巣立って、今年で35年が過ぎました。毎年の郡山でのクラス会には、各界で活躍している級友が集い、旧交を暖めています。

私達は、新制高校が出来て最初の入学試験で安積に入校した級でした。当時は未だ第二次世界大戦後、間が無く、下駄履きの関西修学旅行に米持参と云う食糧、諸物資ともに乏しく大変な時代でした。

昭和30年代の初期、日本も最早や戦後では無いと云われ出した頃、私のサラリーマン生活が始まりました。鋼屑を原料として銅を製造する電気炉会社が就職先でした。その頃の工場は、まだ物資不足、粗悪資材、技術も先進国に学ぶ事の多い時代でした。残業時間が月間百時間に及ぶ事も珍しくありませんでしたが、今思えば楽しい思い出の多い時代でもありました。

昭和39年、東海道新幹線の東京、新

大阪間開通、引続いて東京オリンピック開催で、産業界も活気に溢れました。その後も高度経済成長はオイル・ショックまで続きました。

此の間の鉄鋼統計を見ますと、昭和30年代の初期に、日本の鉄鋼生産は約1千万吨でした。それが、オイル・ショックの頃には、何と12倍の1億2千万吨に達したのですから驚きです。設備能力は、一時1億5千万吨と云われるに到りましたが、経済環境の悪化で、その能力を十分に発揮することなく、昨今では年産1億吨ラインに低迷する状況になっています。その為に大手鉄鋼メーカーが古い溶鉱炉を解体すると同様、私が30年間勤務した中小の電気炉業界でも、設備調整、合併等合理化の波が50年代始めから再々訪れ、昨秋、私も退職しました。

技術者として、入社以来、工場の建設工事、製造現場の指揮、またタイ・インド・アメリカで日本の鉄鋼技術の一端を現地指導する等々、幾多の経験をする事が出来ました。此の間、決して平坦な道程ではなく、幾多の苦難に遭遇しましたが、それを克服出来たのは、安積時代に培われた体力、精神力が基礎にあったからと、今、感謝の気持ちで一杯です。

丁度原稿執筆依頼を戴いた頃、前述の如き人生の節目を迎えていました。若い頃、昔を語る様になったら、人生も老いを迎えた時だと先輩に云われましたが、50の坂を越した今、35年間の人生を駆足で整理して見ましたが、これを期に、これからの人生を大切に生きて行きたいと考えています。

(東鋼興業(株) 業務部長)

弱ってきた胃を正常な
状態に治してゆく
キャベジン コー
新胃腸薬



日酔い、
胃酸過多、胸やけ
胃弱、胃痛、胃重

朝・昼・晩、
毎食後
二錠ずつ。

販売元 興和新薬株式会社
東京都中央区日本橋本町3-4-14

検事生活20年

—今も青春

宗像 紀夫 (73期)

私が安積高校に通ったのは、昭和32年から35年までのことで、もうすでに、あれから約30年経ったことになります。当時私は三春町に住んでいましたから、いわゆる学区外からの汽車通で、朝は6時前に起床しなければならず、大変疲れる毎日でした。級友は、初対面の人ばかりでしたが、入学後すぐに慣れ、その後今日まで付き合っている人もいます。在校中の思い出と言えば、上級生にかり出されて、講堂で校歌と応援歌の練習をさせられ、「元気がないぞ。」とバケツの水を頭からかけられたこと、生徒会の役員となり、国宝級の本館校舎の、二階のバルコニーのある部屋で、学校祭についての会議を重ねたこと、名物教師の授業風景など、まさに当時の「青春時代」が甦ってきます。

その後、時を経て、昭和40年に司法試験に合格しましたので、「巨悪を倒す」などという大それた気持はなかったのですが、昭和43年に検事に任官し、今日に至っています。その間、東京地検のほか、秋田や福島でも仕事をさせていただきましたが、郷里の福島地検で、あの「福島県庁汚職事件」を摘発するめぐり合わせとなったことは、何か運命のいたずらというのを感じました。当時は、同窓の方々の種々のご協力をいただきましたが、安高の恩師からの激励の手紙には非常に勇気づけられました。この10年ほどは東京に居りまして、主として東京地検を中心に

勤務して、犯罪の捜査にあたっています。思い出に残るようなものとしては、同窓の高瀬禮二大先輩が東京地検検事正の時に摘発されたロッキード事件の控訴審の担当を3年ばかりやったこと、日商岩井航空機疑惑事件で、私が取調べを担当した同社の島田三敬常務がビルの7階から飛び降り自殺をしてしまったこと、KDD事件の捜査を担当したことなどです。

正直に言って、最近、検事の仕事を若い人に人気がありません。司法試験に受かっても、殆どの方は弁護士になってしまい、検事になる人は、ここ数年、毎年30人台です。それは、検事の毎日の仕事が、深夜に及ぶこともまれではなく、日曜出勤もあり、仕事の内容も難しく、緊張の連続で、「かっこ良く生きる」現代の若者の感覚には合わないためと思われます。しかし、どんなにハードな仕事でも、その中に楽しみはあるものです。難しい事件を解決したとき、同僚の検事や事務官と飲む酒は甘く、この仕事をして良かったなと思うことも多いのです。私の検事としてのモットーは、「正直者が馬鹿をみない社会」をめざすということです。昨年3月から、東京地検特捜部副部長というポストにあり、主として、経済(知能犯)事犯と取り組んでいます。ご協力をお願いします。

私は、この1月で40代の半ばに差しかかりましたが、今でも、自分は、青春の真只中にいると思っています。それは、米国の有名な詩人であるサムエル・ウルマンの次の詩を信奉しているからです。

——青春とは人生のある期間を言う

のではなく、心の様相を言うのだ——
それぞれの年代で、それぞれの「青春」を大いに生きようではありませんか。

(東京地検特捜部副部長・検事)

昨日・今日雑感

大越 昭男 (73期)

年に1~2度帰郡する。ある年の夏母校を訪れた。夏の強い陽ざしがグラウンドに照り返していたが、木立の中は心持良い涼風が渡っていた。夏季休暇中であり、校舎は閑散としていた。

すでに卒業して30数年を経たが、かつて机をならべた旧校舎の教室は何も変わっておらず、家族と一緒にみかかわらず、昨日までその教室で授業をうけていたような錯覚にとらわれた。

たしか、高2の時、進路により文科系と理科系の2グループにわかれた。

当初、理科系コースを選択したが、途中より文科系に志望を変更した。しかしながら中途からの変更は認められず、授業は相変わらず理科系中心であり、数学の宿題をドッサリ出され悲鳴を上げたことが思い出される。

そんな中で、竹花先生の「世界史」の授業は、一服の清涼剤であった。今でも竹花先生には、年賀状をいただくが、先生の目で感じられた世界観が必ず一筆添えられており毎年楽しみにしている。

閑話休題

現在、私は総合産業情報機関を標榜する、とある新聞社に在席している。

新聞社というと「記者」というイメージ

東京より90分

福島県／磐梯熱海温泉

萩姫の湯



栄楽館

〒969-21 福島県郡山市熱海町4の47

ロイヤルチェーンホテル加盟店 ☎0249(84)2135代TELEX8943-35FAX0249(84)2587

昭和63年5月オープン

——女の時代を予感する——

ホテル

〒969-21 福島県郡山市磐梯熱海温泉
☎0249(84)3333代

社長 菅野 豊 (79期)

専務 清水 殖 (76期)

磐梯熱海
あさかの里



はなのゆ

ジがあるが、新聞社も多様な事業を展開しており、私自身は、講習会、国際会議、展覧会、通信教育、ビデオソフトの開発等を手がけている部署に所属している。いわゆる「イベント屋」に近い。それも、企業向イベントが中心である。昨今、イベント時代といわれ、企業のプライベートショーをはじめ自治体が主催する各種イベントが花盛りである。高度情報化社会が真近といっても、一番手っ取り早く情報を伝達する格好の手法として各種イベントがしのぎを削っている。

私自身、企業向の教育事業関係のイベント（講習会・通信教育・ビデオソフトの開発）等を中心にかかわって来た。それらの中で、イベントとは直接的な関係はないが、教育用ビデオソフト作りが一番楽しかった。プランニングから完成までのプロデュース業である。特に完成したソフトが、多くの企業や学校等で活用されていることを聞くとプロデューサー冥利につきる。

ちなみにヒット作としては品質管理講座（全5巻、日本ではじめてのQCに関するビデオソフト）や機械加工シリーズ（全18巻）などがあるが、人工知能（全6巻）は時期尚早。

新聞屋は、ビデオも制作していますという話。現在は管理部門に移って約1年。外を駆け廻ることもなく、少々運動不足気味というのが近況。

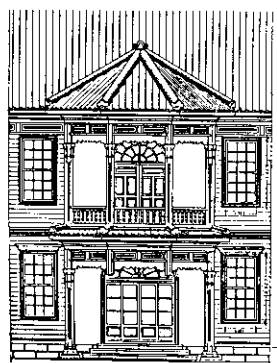
さて、仕事の話を書き忘れたが、これには訳がある。桑野会の会員の方々の多くが企業に所属し活躍されていることと思う。同窓生として、私自身が何かお手伝いできることがあれば、ぜひご連絡いただきたいと思っ

ている。

今、私の勤める「日刊工業新聞」が皆さんに何らかの役に立つことがあればと考えている。

最後に、総合情報機関をめざす Business & Technology の「日刊工業新聞」をよろしく!!とPRをさせていただきます。

（日刊工業新聞社 事業局管理部長）



安積の思い出

大矢 真弘 (88期)

昭和47年4月、憧れの安積高校へ入学し、期待と不安の日々を過ごしている時、昼休みには3年生恒例の水爆弾攻撃の歓迎を受け、放課後はとても高校生とは思えない応援団による校歌応援歌指導が続き、新入生達は毎日、朝のトイレの中、通学途中、休憩時間と寸暇を惜しみ歌の練習をしていました。この連日の努力のように勉強もすれば、安高生はすべて希望の大学に進学するのも可能なのですが……。

その後、ヒョんなことから応援団に入り恐ろしいと思っていた先輩達の中で鍛えられることになりました。体育

館裏の思索の森を前にしての毎日の練習はつらく、特に冬の素足での練習は今思い出しても自画自賛ものです。こういった応援練習に耐えられたのも、練習後のコーラ、カップエビセン、ナカヤのパンの耳の宴会と先輩達の明るい劣等生ぶり、豊かな人間性のおかげだと思います。春と夏の合宿では、OBの方も参加され、安高七不思議、先生方の噂話、童貞喪失話等やお酒とワイ歌を教わる場でもあり、安積には感謝しきれない程の思い出いっぱいです。

野球の試合があると開成山や熱海はあたり前、白河、福島までバス電車を乗りついで応援にやって行き、その中でも白河まで自転車で応援に来た先輩達には驚きました。卒業後、早稲田大学応援部に入部しました。早大の応援部は歴史も伝統もあり、組織され訓練された応援をし安積とは違った魅力があります。しかし私自身は、選手も応援にきている者も、身近にいる同級生、先輩、後輩であった安高応援団時代が一番充実していたように思います。

現在、早稲田実業の職員をしているので今度の春の甲子園大会へも行くのですが、東京の私立学校は地域性がでないためかほんの数10名の生徒しか応援に行くことはありません。安積高校の燃えるような応援を全国にアピールしたいものです。安積商業、郡山北高、日大東北などが行きどうして安積が甲子園大会へ行けないか、ついでにどうして郡山市長に安積出身者がならないのだろうか。

これぞ、安高七不思議の二つである。

（早稲田実業学校 職員

早稲田大学応援部コーチ）

伊藤商会株式会社

土地・建物仲介・リフォーム

埼玉県富士見市鶴馬3545
TEL (0492)53-1384

代表取締役 伊藤 泰昭 (68期)

稲田九十九先生

武藤 一駿 (74期)



故 稲田先生

文系で零点をとつても怒らないが、理系で満点をとらないと張り倒すという理系万能主義者の謹厳な土木技師の子供で

ある私ですが、磐城高校からの編入学で環境に不慣れなことも原因でしょうか、漠然とした将来への不安を胸に、勉学に対する情熱も全く湧かず、一身に学問スポーツに没頭している学友を横目で眺め、悪友との日々酒煙草と悪ふざけに磨きをかけた安高3年間でありました。文系の私大の受験科目が、わずかに3科目だなんてことさえ3年の秋になってわかったという名門安積の生徒として、信じられないほど先生や真面目な学友から非難されそうなこと以外に興味をもてない時代でした。担任は3年間を通じ、安積歴代名物先生の5本の指に入れられるでありましょう数学のカッポン先生で、理系万能主義者と安中の同級生(42期)ということもあって、随分かわいがってもらいましたが、笛吹けど隔らず、怒れば逃げる、スキをみせれば悪ふざけをする……先生からは実に手のかかる生徒で、1日一度は教室に呼ばれている状態でした。

1~2年は、須賀川の妙見山近く、下って登る坂道を通ってバス停まで十分くらいかかるところに住んでいました。たしかに2年生の冬の土曜日だっ

たと思いますが、先生から、日曜日仕事の帰りに寄る予定だと父親に伝えるように言われたことがありました。

そして、当日午後になって雪が降りだしてやまない夕方から、丁度母が仙台に里帰りをしていたため、私が酒やサカナやらを準備して安積の大先輩御2人の酒宴が持たれたのですが、その頃酒の味をおぼえたての私は、台所で密かに盗み酒をしながら当時の私にとって鬼より恐い御2人のお嬢番を生真面目に勤めておりました。

外はドカ雪にかわり、それはそれは静かな夜でしたが、御2人の話は旧友や世間話で始まり、酔うにつれ私の生活勉強へと進んだところで、ため息まじりになってしまいました。

先生が「俺の教師生活〇〇年で目をかけた生徒は必ずのびてきた。しかしお前の息子は駄目だ。」等と、マア本人を目の前にしてよくぞ遠慮のない御意見を……と思えることを、酔眼で私をにらみつけて御語りになれば、これを受けた私の製作者は弁護するどころか、これに同調して慨嘆する仕末。

私が報復としてまずやったことはフケ酒製造です。

丸刈が望ましいという校則、又勉強に身の入らなくなった生徒がまず最初にやることは髪をのぼすことだという信念の先生とに反抗して、入学早々当時全盛時代の裕次郎をまねて慎太郎刈にしていた汚い頭をかきむしり、フケ酒を何回か御二人に御提供申し上げることで秘かな抵抗を試みましたが、あまり効果はなかったようです。

いよいよ終バスの時間がせまり、私が雪道をバス停まで御送りすることに

なり、ゴム長にはきかえ、酔っていてそのうえ皮靴の先生に寄り添って家までしました。30センチのドカ雪の坂道、先生はスッテンスッテン転びそうになります。その都度、横から支えるのが私の役目ですが、盗み酒で酔っておりますうえに先程の御2人の御言葉で小さな胸を痛めている悪ふざけ大好き少年の私です。このチャンスを逃がすはずがありません。

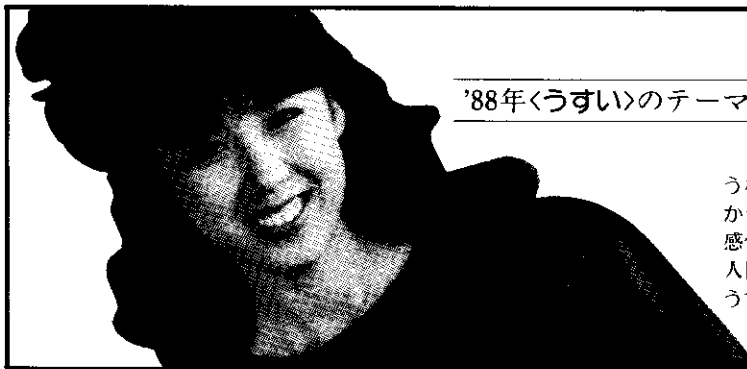
私はわざと足をかけて30センチの雪の中に先生をころがし、助け起こすふりをしてその上に雪をかけたなりしなから「先生!大丈夫ですか!」と連呼することを3回位やりましたでしょうか。本当にこんなに早く仕返しができたのを大喜びしていました。今思えば本当に恥ずかしい限りです。

翌日登校して、悪友に一部始終を語ってニヤニヤしていると、教室から呼び出しがあり、おそろおそろ顔をだしましたら、先生は二日酔の御様子で「昨夜はありがとう。だいぶ酔ったみたいだ。お父さんよろしくいってくれ。」とおっしゃられただけでした。

悪ふざけがどんどんひどくなり、ついに激怒された先生から内申書作成拒否宣言を拝受することとなり、已むなく教室で土下座することで私の高校生活は終了しました。

その後、司法試験に合格したとき、本当に心の底から喜んで下さったのが先生でした。先生、いろいろスマセンでした、とお詫びすることもしないうちに、先生はお亡くなりになってしまい、どこまでも不肖の弟子の私です。

(弁護士)



'88年くすい)のテーマ

高感度アヴェニュー

うれしかったり、いとおしかったり、楽しかったり、なつかしかったり……
感情があるから毎日がとっても新鮮!
人間ってやっぱり感性の生きものみたい。
くすいはあなたの感性にお答えします。

●くらの館……第1くすい/●おしゃれの館……第2くすい



私と山

鈴木 俊一 (59期・60期)

10数年前ふとしたことから友人に誘われて大清水から尾瀬沼を散策したことがあり、それから奥多摩などの低山歩きを始め大菩薩峠へと足を延ばしたのです。晴れた紅葉の山道を登る心地よさを味わいながら峠から頂、そして下山へと、下山の途中靴の不備から足を傷め散々の体たらくで塩山駅へ到着。

この教訓から本格的な登山靴をそして同時に剣岳へ穂高連峰へと夢が膨らんだのでした。富士山も穂高連峰もある山容を見上げる時は誰でも一度は山頂へと心を動かされるのではないのでしょうか？

日本の主な山々には昔からの山岳信仰のせいでしょうかよく社祠が見られ開山の主の碑があるようです。

槍ヶ岳は播隆上人が、中央アルプスの木曾駒ヶ岳は高遠藩土坂本天山が又越中の城主佐々成政は軍事上の目的で立山から黒部川平を渡り針ノ木岳を越える行軍を行っている。

日本の近代登山は御存知英人牧師ウォルターウェストン氏により開かれ、北アルプスも嘉門次氏と共に踏破し大いに紹介されたのである。ここにW. ウェストン氏と妙義出身の案内人根本清蔵氏の興味深い逸話があるので書き加えます。W. ウェストンが清蔵に“妙義山のような険しい岩峰を登る時「ヨーロッパ」では互にロープ(ザイル)で身体を結び合って登るのだ”といったところ清蔵は“冗談をいっちゃ

いけねえもしも旦那が落ちて俺が引っぱられるなら構わないが俺が落ちて旦那まで落ちるようなことになったら困る”と答えたそうです。

これは正にスイス国立登山学校の優等生ではありませんか。余談になりましたが私共(私と家内)は昨年夏も一週間程燕岳→槍ヶ岳→穂高連峰と歩き暮れからは木曾駒ヶ岳、宝剣岳と山小屋で越年しました。山頂から戻って肩の小屋から見上げる山容は夕日で黄金色に映え我が子のような若い山の仲間達と岳ビールを傾けるも束の間に山形は墨絵のように変化するので。明けて新年6時55分見事な御来光でした。360度「パノラマ」そして后方の峰々が美しいオレンジ色のモルゲンロードを見せてくれたのです。登山だけが私と家内の趣味が合うのです。

(薬剤師)

感想と近況

荒井 広幸 (90期)

東京桑野会の皆様には、在京中大変なご高配を賜り、選挙中はさらにご厚情をいただき、初当選をさせていただきました。心から有り難く御礼申し上げます。

安積の県会議員は五名いる。

自民党では、幹事長を務めた大実力者の 大野雅人(石川) 地元のめんどうみには定評のある 山口勇(郡山) 川田節と言われる名演説家一年生議員の中心人物 川田昌成(岩瀬) そして、小生。

社会党では、人物・識見ともに信用

ある 古川正活(郡山)の各氏であります。

県庁マンの先輩方も多数おり、(残念ながら、圧倒的に多いのが福高出身者)、何かと新米の小生にわかりやすく、しかも役に立つ情報や説明を御提供いただき無難に十ヵ月を送らせていただいた。県議会で一般質問を第1番目にさせていただいた時には、本当に助けていただき、安積のありがたさを痛感した。しかし無難であることがよいことなのか。

議会の中で、地元の期待に応えるべく仕事をしようとするには、やろうとする(例えば県道改良の問題にしても)問題として今あるというだけの歴史がある。(というところオーバーですが)その時点からの勉強をしておかないと適切かつ即応出来る仕事とはならない。これで何度か失敗した。

どうやら毎日が勉強で、議員としては頼り無いなあと反省している。でも、今に!

知事選が今年秋にある。候補者の一人に、我が安積の佐藤参院議員の名も見える。後輩として嬉しい限りである。小生は県下最下位の所得の田村郡選出であり、生活、生産基盤整備が遅れている阿武隈山系の住人として、四全総に唱われて、チャンスをつかんだこの地域に最大の理解と開発手法を持つ方が知事になっていただきたいと考える。

県下は今、知事選の熱をおびだしてきている。

(福島県会議員)



東北一円足まめに……。ふるさと商いは心です。
世界のトップファッションをネットワーク。

ふる里の肌ざわり 采女印製品
お店の繁栄 豊かな暮らしをリードする

総合衣料問屋 **采女** 株式会社 **金大**

代表取締役社長 小針 良雄 (67期)

福島県郡山市喜久田町卸1丁目68の1
TEL (0249)59-6464

日本酒は 純米酒に限る

山崎 貢 (56期)

酒は天下の美祿というが、最近では“純米酒”の人氣が急上昇。それと合わせて各地の特産を肴に酌み交わすときほど心が豊かになるときはない。それが一種のお国自慢として酒席のなごやかな話題にもなる。

純米酒といえば全農が現在、米の新規開発の目玉として系統農協あげて「純米愛用運動」を展開している。全農の試算によると、日本酒向けの米の供給量はこの運動の終わる65年には現在の51万トンを61万トンに、純米酒および本醸造酒を現在の14.5%から25%にそれぞれシェアアップができるとソロバンをはじいている。

そのねらいは、現在の米をめぐる環境がきわめて厳しく、消費拡大はますます重要になってきており、主食としての消費に加え、原材料分野における米の需要拡大が重要な課題になってきているからである。とくに純米酒や本醸造酒等は米の使用度が高く、直接的な米の消費拡大をはかることができ、そのうえにそれによって日本酒全般への消費拡大にもつながり、“日本酒復権”へのインパクトにもなるという全農の胸算用からでもある。

しかも、米と米麴(こうじ)と水のみから造られる添加物なしの純米酒は酒造り本来の在り方であり、その理念は自然志向や本物志向の農協ブランド商品のキャッチフレーズである「自然はおいしい」にまさにぴったりであると

いう。さらに全農は最近の消費者の健康志向や本物志向等の要求に他原料無添加の純米酒は合致することができる点を強調し、一般消費の賛同も得ることができると自信を深めている。

ところで、昔から“生一本”という呼称があるが、最近ではきわめて厳密な資格が満たされないと使うことができない。この資格の第一は純米醸造であること。第二は自分の蔵で造った自醸酒であること。そしてさらに原酒であることが要求されるのである。

また清酒の瓶には、胴張りや肩張りのレッテルや級別証紙などが貼ってあり、紙パックや印刷瓶の場合には、印刷によっていろいろな事項が表示してある。消費者がまず先に注目するのは銘柄だろう。だが、そのほかにも大切な事項が数多く表示してある。

まず第一に、その酒が清酒であること。第二に特級か一級か二級かという級別(近く大蔵省は酒税法改正で級別を廃止する方針という)。第三に酒のアルコール度数。第四に容器の容量。第五に酒造工場、会社などの製造者の氏名を表示する等が、法律によって義務づけられている。

さらに、消費者が選択するときの便宜のため、また自社製品の特長づけのために、瓶や缶などの容器に詰めた年月日、純米酒や原酒等の造り方が表示してある。これらの表示は清酒業者の団体である日本酒造組合中央会が自主的にきめた基本によるものである。

最後に、全農から東京桑野会の皆さんへ、「純米酒という世界に誇れる日本酒をぜひ、ご愛飲してください」。

(農業協同組合新聞)

同期会、同窓会

川井 栄一郎 (65期)

第65期の幹事役を仰せ付けられているせいか、突然原稿執筆の依頼が舞い込んだ。

年月の経つのは早いもので、私自身大学を出て山武ハネウエルに勤務してから30年にもなる。この間、本社での一般会計を振り出しに4工場の原価会計、また本社に戻って財務会計、管理会計と、経理畑一筋に過ごしてきた。

3年前から内部監査の業務に従事している。

経理の基本的なことは変わりがないものの、経理業務も技術革新の影響を受けて、帳簿式会計から伝票式会計へ、さらに、パンチ・カード・システム会計から電子計算機会計へと変化し、また、合弁会社であることからアメリカ会計のインパクトもあり、うむことなく業務に取り組んできた。

このように経理情報に囲まれ、常に経理情報の裏に潜む実態に心してきたつもりであるが、現在担当している監査業務を通して見ると、会社の実態を経理情報に映しだすことの難しさをつくづく痛感させられている今日この頃である。

さて、私ども第65期は学制改革の影響をもろに受けた期で、白の二本筋に憧れ旧制中学に入学したのが終戦直後の昭和21年、新制高校の新入生が入ったのが昭和24年と言うことで、旧制中学に入学した者は新制高校の2年生になるまでの4年間ずっと最下級生のま

昔からののれん、昔からの味

料 亭

辰 柳

〒963

福島県郡山市虎丸町22の15

電話 (0249)32-0188(代)

まと言ふ珍妙な体験をもっている。当時の恩師の話によれば、旧制中学への最後の入学生である私どもは「末っ子」と呼ばれているとのことである。

安積で6年間を過ごしたことから同期の纏まりは良く、郡山では二七会、東京では五十鈴会の同期会が組織されている。

昨年の東京五十鈴会は、金子正喜・鈴木勇両君の幹事のご苦勞と竹花先輩のお力添えで、椿山荘で会合を催した。常連の参加はもとより、船を下りた遠藤善久君、大阪から戻った菅英二君等の珍しい顔も見え、31名の参加を得てなかなかの盛会であった。特に、両幹事苦心作の「安積歌集」が好評で、髪の毛の白くなった者も、少々寂しくなった者も、夫々安積の青春時代に戻って高歌放吟し楽しい一夕を過ごした。

同期会の盛況に比較すると、東京桑野会への同期生の参画は、知己の少ないせい寂しい限りである。幸いにして、東京桑野会ではゴルフ・囲碁等の趣味を通じた会合がもたれているし、また、その他の会合も企画されているやに聞いている。

春は東京桑野会で先輩、後輩との知己の輪を拡げ、秋は東京五十鈴会で旧交を暖められるよう同期の皆様にはお願いしたい。

(山武ハネウエル 監査室長)

塾主の思いを受けて

玄葉 光一郎 (96期)

「松下政経塾で研修しています」

「塾?学習塾の先生なのですか?」

「松下電器の幹部養成所でしょう?」

昨年4月、松下政経塾に入塾した私の周りでは、しばしばこんなやりとりが交わされます。

そこで、ここでは少しでも松下政経塾を知っていただくことに、紙面を割いてみたいと思います。

1. 塾の概要

開塾は1980年4月。創設者松下幸之助の私財拠出を当初基金とし、公益法人として発足。在塾生数38名

これまでの塾員、塾友の進路としましては、政治分野29名(内、議員12名)、実業分野26名(内、経営7名)、国際関係団体2名、マスコミ4名、教育・研究他12名となっています。

2. 建塾の目的、創設者松下幸之助(塾主)の思い

「これからの日本、そして世界はどうなってしまうのだろうか」

創設者松下幸之助のこういった社会に対する大きな憂い、いわば“危機意識”が建塾の出発点であります。

松下塾主は「国家百年の安泰は、物心一如の真の繁栄をめざす基本理念を探求していくことが何より大切」と語りかけます。つまり、“危機打開”の方策として、日本の長期展望、基本哲理の確立を説かれるわけです。将来のグランドデザインを創造する所、として政経塾を考えているわけです。

“危機打開”の方策の第二として、人材の育成を説かれます。「立派な基本理念が確立されても、それを力強く具現していく“人”を得なければ、それは無きに等しい」というわけです。

「繁栄を通じて平和と幸福を」というP H P運動の社会的実践者を養成する場

と言ひ換えることもできるかと思ひます。

3. 日常の研修

塾の研修の具体的なイメージを抱いていただくために、今日(1月14日)のスケジュールをご紹介します。

朝6時に起床。塾内を清掃して、海岸を3kmランニング(以上は日課)。午前中は、塾運営についてのミーティングの後、“ヒト”“モノ”“カネ”の国際化について、塾生間(8期生9名)で討議。午後は1時から5時まで、大阪大の新開陽一教授と同一テーマでディスカッション。7時30分まで茶道研修。その後、夕食となり、夜は文献読破とフリー、というものでした。

政経塾の研修方針の大きな柱に、“現地・現場主義”というものがあります。理論修得は当然、理屈も大切だが、実践現場で考えよ、ということです。

これから、塾外での研修が多くなりそうです。

4. 私の思い

松下塾主の思いを受けての私の思いは鮮明です。少しでも社会の役に立ちたい、ということです。政経塾は、そのために徳・知・体を磨き、志を高めていく“修業の場”であります。

内村鑑三の『後世への最大遺物』の中に、次のような一節がございます。「我々は何をこの世に遺して逝こうか。金か。事業か。——最大遺物——それは勇ましく高尚なる生涯である」

安積健児らしく、正々堂々と生きていくつもりです。

(松下政経塾生)

郡山のお泊まりは、やすらぎネットワーク——



ホテルサルート郡山

駅から6分・駐車場完備・85室

代表取締役社長 今泉 正顕 (56期)

〒963福島県郡山市清水台2-13-23

TEL (0249) 22-1133 FAX (0249) 22-1231

座談会 『われら法曹』

《出席者》 高瀬禮二(46期) 柳沼八郎(50期)
 齊藤美彦(69期) 上石利男(80期)
 司会 水口 禎(67期) 桜井 淳(78期)

1月30日 於：東京・内幸町「キャッスル」

——難関中の難関といわれる司法試験をクリアされた弁護士さん四人にお集まりいただきました。後輩よ法曹をめざせ、という訳で、きょうは法曹界を志した動機、それとどんなことをなさっているのか、をお話しいただきたいとおもいます

高瀬 安中入学は昭和4年でして、4年生のとき青森中へ移りました。活動写真は欠かさず見てたものでした。父が判事で、それと母方のおじが検事で、面白そうだなあと思ったのが動機ですかね

柳沼 農家の八人兄弟の八番目に生まれて、弁護士になんて考えてもみなかった。文学が好きで、本屋のでっちになりたかったんです。ところが軍隊から帰って、口べたな東北人には向いてるんじゃないか、それに今迄の体験が生かせると思ひましてね。それで昼と夜、大学へ行ってたのを、早大の昼だけにして法律の勉強を始めました



齊藤 演劇に打ち込んだ高校時代で、県内大会で優勝。主役やらせてもらってまして、志望は日大芸術学部映画学科で

した。3年のとき親友から「好きなだけじゃ苦勞するぞ」。下宿にいた日大生からは「三島に日大の教養部があって富士山も一望できる」と勧められた

——演劇はスッパリあきらめた？

齊藤 いいえ。一年生のとき模擬裁判で証人役やらされたときにも、いかに演じるかを考えてやってみました。でも二年のときの検事役で「うん、もう少し法律やってみようか」。で、弁護士はよくわからないし、裁判官という感じでもない。検事なら「霧島三郎」じゃないけど推理小説でなじみがあるし…と、そんな動機でしたね

——上石さんは学園紛争の華かなときに大学生だったんですね

上石 入学しても講義はボイコット。家庭教師やってて大学へも行かずという毎日でした。そのうち、何のために田舎を出て東京へ出てきたのだろうかと考え、それと、生計たてられれば、という割と気楽な気持ちで勉強始めたんです

——高瀬さんはロッキード事件当時、東京地検検事正でらっしゃったわけですが、検事というと「こわい人」という印象がありますが

高瀬 私たちは「鬼と思われよ。血も涙もないと思わせて、血の通った処分をしろ」と教わりました

——逮捕された田中元首相に「環境が変わりますのでお身体はくれぐれもお大事に」と言われたとか

高瀬 実はある新聞に「田中、と呼ばひ捨てにした」と書かれました。検察への誤解は解かなくてはなりませんから、捜査と関係のない調べの最初と最後に言った言葉を話したんです。夜討ちにきた新聞記者さんらにね

——柳沼さんは接見交通権の確立やモンペ訴訟など、社会的問題、人権の分野で活躍なさってきたわけですが

柳沼 千差万別の個々のケースに関して具体的な正義を求めるのが仕事で、人権を支えるのが法曹の務めであると考えてやってきました



——齊藤さんは昨年、収賄被告の無罪を勝ちとられたそうですね

齊藤 贈賄は有罪となったケースですから極めて異例といえました。あと、忘れられないのは一億円の鋼材代金をめぐる詐欺事件。三年争って無罪となりましたが、息子さんの結婚式直前に逮捕された被告でした

——上石さんにとっての忘れられない事件というのは？

上石 ささやかな弁護士生活ですが、

弁護士 高瀬 禮二 (46期)

事務所 〒102 東京都千代田区麴町6-4
 麴町ハイツ805号室
 TEL. 03(234)1230
 自宅 〒213 川崎市宮前区小台2-22-9
 TEL. 044(854)7271

弁護士 柳沼 八郎 (50期)

虎の門法律事務所
 〒105 東京都港区虎ノ門2-8-10
 第15森ビル8階
 TEL. 03(508)9811(代)
 FAX. 03(501)0695
 自宅 〒168 東京都杉並区宮前5-6-30
 TEL. 03(334)6438

弁護士 渡部 喬一 (64期)

事務所 〒100 東京都千代田区有楽町2-3-5
 隆和ビル6階605号室
 (有楽町マリオン前)
 TEL. 03-572-1326
 自宅 〒113 東京都文京区向ヶ丘1-20-6
 ファミール本郷1104
 TEL. 03-814-6819

九歳の男の子の死亡交通事故の損害賠償請求の裁判ですかねえ

—両親の悲しみは大きいでしょうし、命は金で代えられるものではありませんからね

上石 年もおしつまったときに和解が成立したんですが、父親がね、和解後も「殺してやりたい」と腹の底から絞り出すように言いました。真の解決とは何だろうかと考えさせられました

—この中で、上石さんは一番お若いんですけど、そのあたりでの苦労というものは？

上石 離婚訴訟なんかそうですね。依



頼者が私よりずっと年上の場合など、人生経験の未熟さを痛感させられます。人格陶冶に努めなければならぬと、いつも肝に命じています

—現在は、それぞれ弁護士として幅広くご活躍なさっているわけですが、皆さんの“安積時代”はどうだったんでしょうか

高瀬 清水台というところに住んでまして、長い道のりを歩いて通学していました。それと運動クラブの選手の送迎を、応援団の人にかき集められましてね。駅前で「紫の旗行くところ」を歌いました。いまはすっかり変わってしまって、駅頭に立っても、あれはどのあたりだったのか。全てわからなくなっていましたけどね

—郡山へは今もよく行かれるのですか

高瀬 46期ということで「安四六（あじろ）会」っていうの作ってまして、東京と郡山で交互に集ってます。一昨年は郡山でやったんですが「21世紀まで生きよう」って話したんですよ

—柳沼さんの時代は戦争のまっただ中でしょうか

柳沼 昭和8年の入学ですから、3年生のときに「2・26事件」、4年生が「日支事件」ぼっ発です。私たちは「五十鈴（いすず）会」というんですけど、250人の同期生が、戦争終わったら120～130人になってしまっていました

—楽しみ、というのは？

柳沼 先ほど高瀬先輩もおっしゃったけど映画、サイレントですよ。富士館や清水座っていう映画館があって板妻の時代。月一回か一学期一回、映画をみてもいい日があったんです

高瀬 そうそう。「本日富士館鑑賞を許可す」という貼り紙がでる。その日にきちんと見にいました

—斉藤さんは新制高校のはじめのほうでしたよね

斉藤 安高に入るときは原ノ町にいたんです。白線二本にあこがれ、文学少年でしたので高山樗牛と中山義秀にあこがれて…それで下宿でした。新聞部に入って、素足に高下駄はいて広告とりした思い出がありますね

柳沼 脚絆に下駄。こっけいな恰好だった。でもよく歩いたよ、安中までの遠い道をね。もっとも弁当2つ持って、途中1つ食べちゃう

上石 私たちも下駄がまだOKでした。

雪の安達太良山を見ながら歩いたのがなつかしいですね

—最後に法曹を目指す後輩へ一言

高瀬 やりがいのある仕事です

柳沼 行政官や政治家とも違って、人間の生の姿を相手にします

—宗教家、哲学者という一面もあるんですね

斉藤 いろんな人、いろんな人生に関して、自らの信念を貫くことができる仕事です

上石 学究であり、実践者であるといえるでしょうか

—安積の人間にむいている仕事ともいえます。来たれ！法曹へですね

▼高瀬さんは。東京地検次席として松本楼焼き打ち、外務省外電漏洩事件などを調べ、同検事正としてロッキード事件を指揮した。東京高検検事長を最後に54年から弁護士

▼柳沼さんはスモン薬害訴訟をはじめ、造船疑獄、砂川刑特法大法院事件、マルキドサド事件などを担当。日本弁護士連合会人権擁護委員長等を務め、人権派として知られる

▼斉藤さんは40～48年は東京、横浜など四地検で、吹原、早大不正入試、新宿騒擾、成田空港建設をめぐる東峰十路等の事件の捜査、取り調べを担当。弁護士としては関東弁護士会連合会理事などを歴任した

▼上石さんは55年に弁護士となり、東京・神田駅前に新しい事務所を構える新進法律家。高校時代は社会研究部長、生徒会長に押され、整然とした論理で安積のリーダーだった。今その舞台を法廷に移して活躍している

弁護士 斉藤 英彦 (69期)

事務所 〒160 東京都新宿区新宿1-3-8
YKB新宿御苑804号室
TEL. 03-356-6677(代)
FAX. 03-356-6678

自宅 〒188 東京都田無市本町2-14-9-803
TEL. 0424-65-7197

弁護士 武藤 一駿 (74期)

事務所 〒104 東京都中央区銀座8-15-15
銀座原ビル 6階
TEL. 03-543-9354

自宅 〒247 神奈川県鎌倉市城廻668-16
TEL. 0467-45-4038

あけいし
弁護士 上石 利男 (80期)

事務所 〒101 東京都千代田区鍛冶町2-9-5
東園ビル 5階
TEL. 03-252-9671(代)
FAX. 03-252-9673

自宅 〒335 埼玉県蕨市南町1-5-2
TEL. 0484-43-6979

安高柔道部のこと

柳沼 晃 (65期)

安中に入学したのが昭和21年。つまり安中最後の生徒である。安中65期、安高4期の卒業といわれているのだが本人の意識としては“最後の安中生”が強い。ともかく在学6年間のうち、4年間の後輩がいなかったのだからこうなるのも、やむを得ないと思っっている。昨年、手もとに届いた「安積歌集」をみていたら仙台の河北新報本社にいた3期の杉山忠資君の小文がのっていた。杉山君によると「在仙の安高3、4期卒の合同同期会が開かれた。席上で安積時代に迷惑を掛けた(いじめた?)とかで3期が4期を上座に座らせてくれた」というのである。もちろん先輩諸兄には、応援歌をくりかえし、たたき込まれた以外はいじめられたこともなく、どちらかといえばヤンチャな後輩で迷惑をかけていたに違いないのである。

多くの同期・同窓生が“安積”を語っているので同じようなこと書くのを避けて、自分なりの思い出を記すとすれば……。まず安高柔道部の設置。終戦の年から敵性スポーツ(剣道も)とかで駐留米軍から禁止されていたため、畳一枚すらなかった。高1から郡山警察署の道場に通った関係で柔道部が欲しくてしょうがなかった。そこで県下にも名を知られていた浜崎五郎先生(故人)に同好会をつくりたいと申し出て快諾を得た。高2になったばかりである。続いて生徒会に柔道部新設(予

算獲得)の承認を求めたところPR不足で票が足りず、正式には高3になってOKがでた。

いま考えると30枚の畳や体操場のスペースどりが、スナリ行ったのは浜崎先生のご配慮や中館学先生のご協力があったからに相違ないし、いまだにそのお礼を申し上げていないことに悔が残っている。

部発足に当っては20名をこえる入部の申し出があり、けっこう盛況だった。現在は同好会時代から参加した安高66期の柳沼福夫君がOB会長を務めており、ことしも1月9日開催の総会にお誘いがあった。参加の気持ちは十分にあるのだが仕事柄、いつも欠席と相成ってしまっている。

そのお詫びにというわけではないが、東京桑野会の先輩の方々と戦後の柔道部員とのコミュニケーションの場をつくるべく、ご提案をさし上げたいと思っている。64期以前の先輩は歴代、全国中学大会の常連であったと聞き、2年ほど前の東京桑野会の総会では沢田悌会長、鎌田正二顧問、竹花則栄副会長ら大勢が“柔道部の歌”を高吟してくれた記憶がある。47期の滝田陸弥先輩などは、往年の柔道部を話したすと、もう止まらない。古き良き時代をじっくりと感じさせてくれる。

柔道部のほかでは、思い出というより、安積時代そのものが毎年東京で再現されている楽しい会合がある。65期の東京五十鈴会がそれ。川井栄一郎会長(山武ハネウエル)を筆頭に100名をこえるメンバーがおり、昨年11月にもおよそ40名が集まった。東京桑野会同様、バンカラで、テレ屋の、そして

ねばり強い面々である。

(日本工業新聞社編集局長)

青森桑野会を想う

西館 興四次 (65期)

「ふる里は遠くにありて想うもの……」と言われる様に故郷を遠く離れた桑野会青森県支部の活動は47年2月の発会式以来今日まで毎年総会を開いて15日を数え、会報も41年5月の創刊号以来16号に及んでいる。

この様に遠い地にありて活発な活動をしている支部は珍しいものと思う。私も60年春に東京に転勤するまで発会式以来総会に皆勤し、会報の編集に携わって来たので青森県支部について述べてみたい。

1. 創設のころ

昭和47年2月、小雪の舞う浅虫温泉に於て発会式を行なう。設立準備は上野敏夫現幹事長(55期)、当時の青森営林局経営部長橋本善治氏(47期)及び当時の県立中央病院外科部長山口巖氏(59期)が当り、会員7名の出席で発会した。母校より川崎忠服先生(47期)、仙台桑野会から武田仁吾幹事長(47期)のご臨席をいただいた。

翌年2月の第1回総会を浅虫温泉で開いた。会員も20名と増え、16名が集った。母校から吉田浦蔵、菅野順一両先生、吉田安生先生をお迎えして盛大に飲み、語りて母校を偲んだ。第2回から弘前、八戸、青森地区の輪番制とし、毎回20数名が集まり母校の近況を聞き、応援歌を蛮声はりあげて歌い、翌朝また酒をくみ交し、昼頃解散する

 みちのく銀行

大切にしたい
ふる里の美しい自然……

本店・青森市
東京支店
中央区日本橋大伝馬町7-5
支店長 西館 興四次 (65期)

のが習わしとなっている。

2. 幹事長のこと

毎年の総会の外、会員の転出入の歓送迎会、観桜会等が時々開かれ、会員諸氏の友情、連携と安積を思う強いきずなどとなっているが、これを大きな度量で物心両面から支えて来た上野幹事長の情熱無くして語る事が出来ない。

創立百周年記念誌「安中安高百年史」各界における卒業生の活躍の章に次の如く記述されている。「弘前市で医療法人安積会上野病院の院長を務めているのが上野敏夫(55期)。弘前医大を卒業後……41年診療所開設。53年上野病院を開設して今日に至っている。安積を愛する気持には並々ならぬものがあり、青森県桑野会幹事長としての尽力ぶりは高く評価されている。安積卒の弘前大学生で、上野の世話にならない者は皆無といわれる程に、愛情をもって後輩の面倒をみている。」

3. 会報発行のこと

上野幹事長より創刊号編集を命ぜられ、取材、原稿依頼、編集、印刷依頼等で苦勞したが、題字は初代会長の秋月弘一氏(36期)に依頼し、表紙は桜の弘前城を配した。上記百年史桑野会支部の活動の項に「桑野会青森県支部は……発足と同時に会報を発行しているが、これは桑野会支部が独自で発行した最初の会報であった。……毎号いづれも大変に充実した内容の会報である。」と記され、口絵(46頁)にも紹介され支部として光栄に思う。

現在までの会報の特徴はほぼ全会員からの随想を載せていることである。(実は上野幹事長から原稿切れ時になると連日電話による督促が効を奏して

いる模様。)

元弘前中央高校教諭で樗牛研究家、工藤武亮氏の樗牛論を創刊号から9回も特別寄稿として誌面を飾っており、又、弘前の旧第8師団長西義一氏(7期)のエピソード、戌辰の役後の旧藩士広沢氏(三沢市在住)のこと等が特筆される。編集の地区輸番制。上野幹事長の資金支援等々。

最後に私の青森時代の心の拠所であり、誇りであった青森県支部の益々のご隆盛と会員各位のご健勝を祈念して終りと致します。

(みちのく銀行東京支店 支店長)

寒冷キャンプの 夜は更ける

寺木 秀一 (81期)

私の主宰するキャンプクラブで、この冬二回ほど野営をした。夏だけではなく、四季を通したオールシーズンキャンプを標榜しているのであるから、冬の雪の中でもテントを張る。幸か不幸か、今年は全国的に降雪が少なくフィールドにしている奥多摩のキャンプベースには雪がなかった。しかし寒いのである。日が暮れると枯れ木を集めて焚火をおこなう。それでも体の裏半分(?)は冷えてくる。新宿貴族よろしく段ボールを集めて、急拵えの風避けを作る。今日のゲストのM氏は、カメラマンでもあり出版プロダクションのオーナーでもあるが、志願して焚火係となっている。とにかく火を燃やすことに喜びを、快感を感じているのである。アウトドライターのI氏は、夕食の水炊きに微妙な味をつけて、料

理のリサイクルを行う。これは、彼の得意術で、ヨーロッパ放浪の旅で身につけたものである。

スタッフの一人S君は、誰も連絡しなかったのに、夜半になって強引に闖入した。何も持ってこなかったが、25度の1.8リットルだけは忘れていなかった。大学院のドクターコース都市公園の研究をする生徒であり、文通の好きな、嫁さん募集である。

こんな仲間たちを、私はサバイバルキャンプクラブと呼ぶことにして、今年で6年目になった。人間の存在(Survival)のための技術と精神で子供たちに……と考えたのが、当初のコンセプトであったが、このごろ少し変わってきた。言葉や文字では伝えられない大人の生き方や哲学を伝えることが、人類の教育であり、生存への道の選択ではないかというような事を、突発的に確信してしまったのである。

満天の星は冬のダイヤモンド、まだ燃えてさかる火を囲んで、まわりでは、子供たちが十数人、春からの新しいキャンプファミリーを迎えるための、プログラムのプランのアイデアを出し合っているところである。

昨日は、このキャンプベースまで40キロを越える道程を歩いてきて、今日は軽く山ひとつ登ってしまった愛すべきジュニアリーダーの中学生たちのキャンプに、実は今回邪魔をしているのである。

このようなキャンプを毎月続けているのであるが、今年こそは、夢の海外遠征キャンプの実現をと計画をすすめているところである。

(上越教育大学大学院 小学校教員)

81期同窓会 開催決定		日 時 於 問合せ	昭和63年8月14日(日) 磐梯熱海温泉 紅葉館 事務局 TEL0249(22)4310 安積高校内 笠原・野崎(81期)
郡山自動車学校 常務取締役 小川 満 TEL 0249(44)0440	三英堂事務器株 常務取締役 柳沼隆一 TEL 0249(59)6220	株関川栄達商店 代表取締役専務 関川栄司 TEL 0249(32)1123	
株そうび 代表取締役 田澤博志 TEL 0249(52)7275	東北エコ建鉄株 代表取締役 増子一二 TEL 0249(22)8820	株山元工業所 常務取締役 日下康男 TEL 0249(22)8569	

超伝導と

サラダ記念日

永山 幸男 (82期)

安積を卒業して、いつのまにか20年が過ぎてしまった。ということは、同期の友人、三瓶隆氏と23年間付き合い合っていることになる。お互いに本好きで、酒好きで、テレビ観戦型スポーツファンであったこともあって、途切れこることなく腐れ縁が続いている。

三瓶氏は、流通関係のある協会や、セミナーの企画をしている。私は、小さな(というより「零細」といったほうがピッタリくる)理工系出版社で編集の仕事をしている。2人の酒の席の話は、お互いに興味のあるものに限られるわけだが、酒の酔いが話を支離滅裂に広げてしまうのが常である。

ここ10年、何かと我々の酒席の俎上に上がったのは、昨年まで巨人軍のピッチャーであった江川卓君である。彼とその周辺ニュースは、汲めども尽きぬ話の泉であり、我々二人を結び付ける重要なテーマであった。江川君を通して世の中を見ていたのかもしれないという気がするくらいである。

さて、昨年の暮れのある晩、神田の焼き肉屋で、いつものように江川問題からスタートして、とりとめもなく社会時評を楽しんでいたときのこと。どういう成り行きか、話題が「超伝導フィーバー」になった(蛇足だが、超伝導の「デン」は「伝」であって、断じて「電」ではない!)。

2年前からの超伝導騒ぎを、ここで説明する余裕はないのだが、三瓶氏と

おしゃべりをしているうちに、面白いことに気がついた。こじつけになるかもしれないが、科学者コミュニティーの社会現象として「超伝導フィーバー」を眺めた場合、俄万智の『サラダ記念日』現象とよく似ているのである。すなわち、

1. それぞれ全く新しいジャンルに属するものではない(『サラダ』は短歌という伝統の形式に従い、「超伝導」は80年近くも前から知れている)。
2. 難解な印象を与えず、すぐ出来るように見え、実際すぐ出来る(『サラダ』の短歌は、その語法をマスターすれば、すぐそれらしきものがつくれるし、「超伝導」の方はそのキットさえ売られている)。
3. それらの本質を論評できる人がまだいない(『サラダ』の評価は人によりまちまちだし、高温「超伝導」物質は次々に発見されていても、その理屈は謎のまま)。

といった具合である。結果として、これらは必ずお金の話と結び付くのも共通している。そういえば、江川君が野球の実力そのものではないところで話題を提供するのも、三つの条件にあてはまるような気がしてきた。

今度三瓶氏と会うときは、何が酒の肴になるのだろうか。瀬古問題の普遍性かもしれないし、双羽黒問題の不可解さかもしれない。しかし、よく考えてみると、高校時代から例の文化財の校舎で同じような話をしており、いっそうに進歩のない証明でもあるわけだ。

(地人書館編集部)

「最終のリレーで 総合優勝を決める」

阿久津 哲夫 (85期)

昭和46年6月6日 福島民報紙。

——安高陸上部は昨年の県高校総体ライバルの福島高の前にわずか2点差で泣き、男子総合優勝を逸した。

以来、主力選手が2年生だったこともあり、今年の大目ざし雪辱の意気に燃えて試験中も休まずにトレーニングを続けてきた。しかし、昨年痛めた阿久津主将の足の故障の回復が思わしくないうえ、さらに走り幅とび、短距離の切り札、熊谷選手まで足首を痛め出場資格のある六選手のうち、まともなのは短距離の本間、須賀、藤川、中距離の山田、4人というピンチになってしまった。

「3位入賞さえ、あぶないと思った。」とは三留邦俊監督。ところが大会2日目の400米でその阿久津が50秒5の県高校新で快勝、これが起爆剤となった。山田が「仲よしの2人の分も……」と1500、800、1500障害の中距離全種目にライバル、久保(田村高)を押さえて優勝する放れワザをやったのけ、本間も100米に2年連続優勝、200に2位、熊谷も痛みをこらえながら110米ハードルで5位に食い込んだ。こうなると強い。対抗得点に大きな影響がある400米、1600米の2本のリレーも“優勝”に盛り上がったチームプレーで制し、磐城高を逆転して、7年ぶり4度目の栄冠を勝ち得た。

折りから昨年まで同部の監督をしていた三塚晶弘氏(現宮城県岩出山高教

電話 〇四八七—八一—二七〇一

〒362 埼玉県上尾市小敷谷八四五—一
三—二—四〇四

日本パル
富山 健樹 (67期)

いゝ顔に

ちゃんと歩いて

覇気高強

輝顔招運

明顔来福

好顔到幸

元氣よく

仲よく

明るく

諭)も観戦中で、選手たちは三留、三塚新旧2人の監督と抱き合い、この“傷だらけの栄光”を喜んだ。

「ボクと熊谷の分をみんながよくカバーしてくれた。ボクの400のレコードが起爆剤だなんていわれると恥ずかしいが、あれで主将としての責務を果たせたと思う。育ての親の三塚先生の目の前で優勝ができ、本当にうれしい。」と部員を代表して感激を語るのは阿久津主将。三留監督も「選手たちがよくやってくれた。これからフィールド種目、長距離も強くして行きたい。」と語っている。――

(以上、紙面より)

総合優勝をかけた最終の1600米リレーを前に我々は、陸上競技では珍らしくスタートライン上で第1走者を囲み、紫の地に「安積」と金文字で刺しゅうされたハチマキを締め直し、「安高ファイト」の声をかけ、勝利を誓い合った。ゴールを駆けぬげ、勝利を確認し合った我々はスタンドで見守ってくれた新旧両監督のもとへ走ったのであった。表彰式や両監督の前でこらえていた涙も、夜遅く郡山の駅で出迎えてくれた諸先生方、応援団、同級生達の歌う“勝利の歌”を聞いた瞬間、不覚にもほおをつたったのであった。

“紫の旗のゆく所”“安積魂”の精神で三塚、三留両監督の教えを糧に茅ヶ崎の地で現在、教職についている次第です。

(神奈川県立鶴嶺高校 教諭)

40才突入の記

土屋 直文 (80期)
(旧姓猪俣)

おととしの元旦、51期の島田守家先輩より、突然(?)の年賀状を頂戴致しました。私の家から歩いて10分程の所にお住いで、桑野会の名簿で私の名前を見つけて下さったとの事で、びっくりするやら感動するやら、一度に懐しさがこみ上げて参りました。新学期早々の校歌や応援歌練習の際、さぼりかけた同級生が応援団の先輩に張り倒された記憶から始まって、お世話になった先生方やクラスメイト、狭くてきたなかった部室と先輩達、同人誌の広告集めにかげずり廻った夜の商店街……。あれからもう、20年以上が過ぎてしまいました。身も心もいつまでも若々しくはないのだという事を、やっと自覚出来る様になった今、残りの人生をどの様に生きてゆけば良いのか等と、自分らしくない事を時々考えるようにもなりました。

大学を卒業後、横浜の私立高校で教師をしていた私は、当時、独立の準備が進んでいたパラオ共和国の日本人教師募集に応募し、他の2人の仲間と共に採用され、アメリカに行きました。「パラオに対するアメリカの愚民政策に耐えられない。」という大統領候補者の苦悩に、少しでも自分が役立てればと心の底から思ったからでした。ところがパラオの独立は延期に延期を重ね、結局私共の赴任も4年半程先送りになってしまい、私共のパラオ行きも断念せざるを得ませんでした。この間私

は世の中を、初めて勉強させられました。パラオを軍事基地あるいは空母・原潜等の寄港地として確保しようとする米国政府の意向に始まって、下はほんの些細な利益まで吸い取ろうと群がる日本人の利権屋まで。パラオ国内でも核廃絶を呼ぶ人から、米国の補償費を当て込んで基地化賛成運動をする人々まで、実に様々な対応があったようでした。

13ヶ月間のセールスマン生活の後、再度教職に戻った私は、「人は何によって生きるか」というテーマを、改めて生々しく身近に感じながら、横浜で教鞭を執り続けている所です。

自由な思考と平和な生活を築き、保証するものは数え切れない程有ると思います。経済力、政治、軍事力、宗教etc……。今の私に出来る事は、教育を通じて、自分なりに、精一杯客観的に現代を理解させ、将来を考えてもらう事だけのようです。個性や個人差を無視した無目的な点取り主義や詰め込み主義、自分と自分の子供だけが人並み以上でありたいと願う親のエゴ、まだまだ学歴が幅を利かせている社会意識。現代の高校生を取り巻く教育状況は複雑で決して恵まれたものではありません。いろんな生き方が受け入れられ、本人にとって楽しい人生である事が最優先される社会を目指して、これからの教師生活を全うしてゆきたいと思えます。

とりとめの無い話になってしまいましたが、最後に、会員各位のご健康とご発展を心りお祈りし、筆を置かせて頂きます。

(山手学院中・高校教員)

弾性無限への挑戦

工業用ゴム製品の製造



株式会社 朝日ラバー

代表取締役社長 伊藤 巖 (65期)

本社 埼玉県川口市赤井2丁目13番11号 ☎334
埼玉工場 電話0482(85)2251(代表)

福島工場 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字坊頭窪1番地
電話0248(53)3491(代表) ☎969-01

地価高騰

武藤 芳司(71期)

早いもので、安高を卒業して30年、5度目の辰年を迎えました。辰年は大きな事件が起こると言うそうですが、すでに昨年に起ってしまいました。「円」「株」「土地」、この先どうなるのでしょうか。

私は建築設計を生業としていますのでとりわけ土地については考えさせられます。卑近な話で恐縮ですが、16年前千葉県柏市に、嫁に引かれて住みつきましたが、今でこそ、柏を知る人も多くなりました。

首都圏の中では非常に評判の悪い常磐線の田舎の駅で、駅に降りるとトイレの臭いがひどくて鼻をつまんでかけ出す様な所でした。それが地下鉄千代田線の開通と駅前(東口のみ)整備で、地価が一変してしまいました。東京大手町までの地名は「〇〇が丘」「〇〇台」となります。私には何が何だか解せません。

昨年夏ごろの事ですが、親しい近所の奥様(不倫の関係はなし)から、老人二人が住める土地とアパート用の土地を捜して欲しいと頼りましたが、理由は両親が日本橋で15坪程の八百屋を営んで居て、5億円で売ったので、その代替として娘の近くで老後を送りたいとの事です。さっそく親しい不動産業者数人に頼んだのですが物件が無いのです。この人と同じような要求で、相場の地価など関係なしに土地があれば売れてしまうそうです。当然周囲の

地価も上昇しました。最近まで、坪50万の土地が100万、200万だと聞きました。どんな仕組みでこうなるのか浅学短慮の私には理解出来ません。

まあ上野まで30分ですから当然かも知れません。地下鉄開通直前、義父が50坪の宅地を350万で手放したのが、開通後1200万で売買されたそうです。

又この辺りは、北総台地と呼ばれる所で、手賀沼の低地に向かって岬の様な形で丘陵が出入りして、谷津(へっころ谷とも言われる)と呼ぶ谷状の地形が有るのですが、常識的には宅地とするにはむずかしい所です。この谷津が建設現場の残材の捨て場になり、谷をほとんど埋めつくすと、どこからか山砂を持って来て“キレイ”に整地して宅地として売り出します。事情を知らない人が見れば素晴らしい宅地で、相当の地価です。あっとゆう間に家が建ち、町が出来上ります。昔、砂上の楼閣があったそうですが、今^{ミナ}芥上の楼閣とでもゆうのでしょうか。売り出し仕組みが出来れば、私の生業としている建築設計の仕事も増えて来るのではないかと淡い期待を持っているのです。

(一級建築士)

地方の豊かさ

松崎 茂(93期)

官庁は、どうも冬がいちばん忙しくなるようだ。これは、来年度に向けての予算や法令改正等に係わる重要な仕事がこの季節に集中するためだろう。

しかし、どんなに忙しくても、いや、

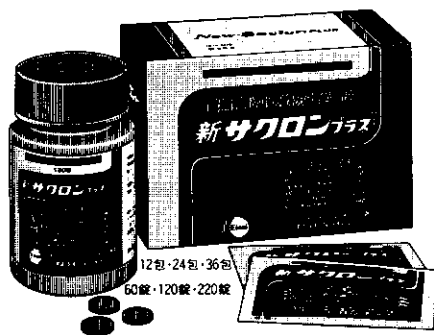
忙しければ忙しい程、仕事以外のことがやりたくなる。特に、その時期でなければできない場合は、何とか仕事をこなし、職場の同僚に根回しをして時間を作るようにしている。今の時期なら、何といってもスキーである。

私が勤務する自治省では、新採用者は入省後3カ月の研修の後直ちに県庁に出されることとなっており、私の場合、青森県であった。同じ東北地方ではあっても、北の青森と南の郡山とではその気候、風土、言葉などいろいろな点でかなり異なっており、とまどうことも少なくなかった。特に積雪量の多さには大いに驚いた。青森市の中心部でも最高で2メートル近くになる。当然スキーが盛んであり、私の場合もスキーの得意な職場の先輩や友人に半ば強制的に(?)始めさせられたのである。

青森には、各地にスキー場があり、手軽にスキーを楽しむことが出来た。特に、青森市内にあるスキー場は、車で30分程度であり、仕事の後のナイタースキーも十分可能であった。帰りに郊外のサウナ付き銭湯(料金は一般の銭湯と同じ。)に入り、湯上がりのビールをグイッとやるのは、最高の楽しみの一つであった。

ところが、東京ではそうはいかない。スキーは必ずスキー旅行であり、事前に綿密なスケジュールを立て、ホテル又は旅館を予約し、交通手段を確保して置かなければならない。とても手軽なレジャーとは言いがたい。また、休暇を取る予定でスケジュールを組んでも、そのとき重要な仕事が入ってくれば、休暇を取ることができず、結局行けな

3つの効果 をプラス。



プラス効果

1 胃の中にある空気の泡を取り除く新成分を配合しました。

プラス効果

2 胃粘膜の保護・修復効果を高めました。

プラス効果

3 制酸効果が延びました。

緑の胃ぐすり

新サクロンプラス

Elsai
エーザイ

くなることもある。この場合、ちょっと延期するということはまず無理である。そして、何といたってもお金がかかるのである。交通費、宿泊費、リフト代などいろいろ含めるとかなりの出費である。

東京は、いうまでもなく、わが国の政治、経済、文化の中心であり、住民の所得も地方に比べて高いとされている。しかし、その生活は地方より豊かであるといえるだろうか。

スキーに行く準備をしながら、そんなことを考えた。(自治省勤務)

「文学はやめよう」

土門 幸紀 (100期)

文学とは全くつまらないものである。凡そ数ある学問と名のつくものの中で、文学ほど実生活において役に立たないものはない。他の学問が学問であると同時に、職業として利用し得るのに対して、文学だけは、ごく特殊なケースを除いて、飯の種にすることは不可能である。

役に立たないどころではない。時にそれは害毒でさえあり得る。一冊の小説が、一篇の詩が、それを知らなければ、決して生ずることはなかった問題意識を人の心に植え付け、人生観を、そして性格までも変えてしまう。しかも、良い方向へではなく、悪い方向へと導くのである。自信を喪失していく一方で自己愛が深まり、自意識過剰となり、それ故に内向的で人嫌いになる。金や出世、権力や名誉に対する欲望が薄れ、向上心がなくなり、努力を厭い、

無気力になる。懐疑的で理屈屋になる。何よりも未来に希望を持ってない。そして死、とりわけ自殺をロマンチックに考える。等々、その弊害には枚挙にいとまがない。これらのことは世間一般のものさしではかるならば、利とするところは一つもない。そもそも、価値感が社会のそれとは大きくずれてしまっているのです、それに危惧さえ抱かない。むしろ、孤高を気取り、自分が世俗に染まらないことに誇りを覚え、社会生活から落伍していくことに憧れさえ抱くものだから始末が悪い。勿論、これは本人の性格にもよるだろうが、文学がその後押しをしているのは疑うべくもない。

「近頃の若い者は本を読まないからいけない。」という言葉をよく聞くが、それはまったくの間違いで、むしろ、かつて言われていた「本ばかり読んでろくな人間にならん。」という言葉の方が的を射た意見なのである。

いずれにしろ、つまらない道を僕は選んでしまったようだ。

(早稲田大学1年)

うめくさ

渡辺 修哉 (84期)

お酒を味わいながら機知に富んだ会話を楽しむ、そんな時の為の3つのお話。あなたも少しだけカクテル通に。

カクテル-COCKTAIL-直訳すれば“雄鶏の尻尾”なる奇妙な名前がついたこのお酒。歴史を緋けば紀元前まで遡るというが、そんな大昔の話はさっておき、現在私達が飲んでいるカクテ

ルのほとんどは1870年代、つまり製氷機が開発されて以後の産物。なぜなら、あのきりっと冷たいカクテルは氷なしではあり得ないのだから……。語源は諸説あるが、その一つがミックストリンクを混ぜた“木の枝”の形が雄鶏の尻尾に似ていたというもの。

—“マルガリータ”は忘れ得ぬ恋人の名前—アレキサンダー、プリンセス・メリー、マルガリータ、そしてピンク・レディーにサマー・クィーン……。これらは全て女性に捧げられたカクテル。それが現在までスタンダード・カクテルとして残ったもの。何と女冥利に尽きる話！殊にマルガリータは、創作者の初恋の女性の名前。1926年、2人が狩猟に出かけたところ、ミス・マルガリータは流れ弾にあたって、彼の胸に抱かれて死す。1949年、忘れ得ぬ恋人の名前を自らの創作カクテルにつけた、というのがこのマルガリータだ。

—ショート・ドリンクとロング・ドリンク—カクテルはショート・ドリンク、ロング・ドリンク、ホットドリンクなどに分類される。ショート・ドリンクは、出来るだけ早く飲まなければ、その鋭い味わいを失ってしまうカクテルのこと。ふつう小型のカクテルグラスに作られることが多く、ダイキリ、ギムレット、マテニーなどがその代表。

ロング・ドリンクは、ゆっくり時間をかけて飲んでも味が変わらないカクテル。タンブラー、ゴブレット、コリンズグラスなど背の高い大きなグラスで作ることが多く、ジン・フィズやジン・トニック・ラム・リッキーなど。

ふるさと福島県の

東京支店

〒103
中央区日本橋1-3-16
大正海上日本橋ビル
TEL 272-8701

東邦銀行

本店 / 〒960福島市大町3番25号
TEL 0245-23-3131

新宿支店

〒160
新宿区西新宿7-1-12
薫友ビル
TEL 365-0461

又ホット・ドリンクは、その名の通り温かいミックス・ドリンク。

(サントリー(株)東京)

還暦の正月

山本 佳 (58期)

「亭主達者で留守が良い」を地でゆく家内から、旅行に行つてらっしゃいと再三すすめられたのに意地を張った訳ではないが珍らしくどこにも旅行に出掛けず一週間自宅で寛いだ。

NHKの紅白はマンネリ脱出を図った意欲的な企画で何年ぶりかでじっくり観た。少年時代に日和田の八幡様には毎年2年参りをした原体験が身につけていて、ゆく年くる年の時間になると屋上にあがり上野寛永寺から流れてくる除夜の鐘に掌を合せた。

元旦は上野の森で太極拳とラジオ体操のあと十数名の仲間と両大師様に初詣。梅樹の多い境内の焚火で暖をとり無風快晴のなか朗々たる初日の出を拝んだ。

新春の新という字をはずませて

暦めくる 心もめくる(俵 万智)

お神酒とするめ。こんぶの乾きもの、おしんこのおつまみを戴き賑々しくなる。暮れに世間を騒がした双羽黒の話が出る。「馬鹿な男だねえ」「横綱にしたのが早かったんだよ」と非難の声が多かった。相撲好きな私は双羽黒素材が惜しくてならず、また人間の業のようなものを垣間見た感じで至極残念な出来事だった。

両大師様のお神酒に顔を赤らめ医薬神を祭つてある五條天神にお参りし絵

馬を買った。昼ごろ娘が夫婦孫2人を連れ年賀にくる。おせち料理と手巻き寿司で祝盃を挙げ一緒に浅草寺にお詣りした。レトロブームもあるのか若い人々の参詣が増えてきて、5才の孫娘は和服の私の肩車に乗せ仲見世を暫く歩いた。

今年は辰の年男しかも本卦還りの歳にあたる。白髪蓬々とし昨年あたりから固有名詞のド忘れ回数が少し増え、こまかい字はメガネに頼る口惜しさはあるが、チェックする成人病もなく若い人に較べて酒量も遜色ないしカラオケの高音も出る、小水の切れも良い。自分自身昔風の翁という自覚はさらさら無い。人生は一寸先は闇は百も承知、それ故に禅で云う「時限」「場限」の平常心が大切だと思う。落ち込んだ者齢の患者さんには今の時代は自分の歳に8掛けして計算した方が精神衛生上良いですよと勇気づけている。つまり60才の人はロクハシジウハチで未だ未だ鼻たれ小僧、無理に老成振る事もあるまい。子供達が赤いチャンチャンコも作ってくれば着るが、解脱・得道などとは程遠い。むしろ愚かさ生臭さに満ちた己れにあきれる事が多い。

ただ「道心」の様なもの「本当のしあわせ」の様なものを静かに模索している自分を発見する。

運勢暦によると辰年生れの人勝気のため困難時によく耐える性格というのが当たっているかも知れない。剛直さもある。一方暦通変化運もある土地の事で危く詐欺まがいの目に逢ったり、信用した人に金銭をだまされたり美人局に遭遇したり急性肝炎で2ヶ月入院したり同業者に嫉妬されたり長い人生山

脈の旅程で人生の裏表・哀歎をじっくり味わった。安積の友人には随分助けられた。根がオプティミストなのでマルタツの男(母胎内も辰年……マルタツ)は運が強いんだと自分に言い聞かせている。昨年は「マルサの女」が新語金賞になったが「マルタツの男」の語感も悪くない。

年賀を応接間のテーブルの上に並べて整理していると、人との関わりの中に往時茫々の旅路が浮かんできた。暮に開業30周年の地点を通過した。工面して造った開業資金を盗難に遭わないようにと母が編んでくれた胴巻きに入れて夜行列車で郡山から上京した出発点を想い起す。「若い時の苦労は買ってもしなさい」と教えてくれた母の一言が支えになった。

今は都会に山河性を見出し上野の森と不忍の池をわが庭とし現在地に棲む天恵を満喫している。さりとて人は最後に見たい山河があると言う。私にとっての母胎回帰は安達太郎山と阿武隈川であろう。

竹馬やいろはにはほへとちりぢりに(万太郎)の句があるが見知らぬ他国のたそがれ時の哀しさを知り尽くしている東京桑野会の友人は黙って坐っているだけで暖かくなる思いやりと励ましがある。

人生は時間と空間と人間との中に成り立つものだが、時をまさぐれば次の辰年は西暦2千年、そこへ向ってスタートラインに立ったようでもある。

還暦の正月はやはり普段の正月と少し趣きを異にしている。

(歯科医師)

● 歯科一般、インプラント、矯正、歯科健康相談

セキネデンタルクリニック

東京都中央区銀座2-15-2 東急銀座ビルB1
電話 03(541)9945

関根歯科医院

東京都豊島区南大塚3-44-11 フサカビル
電話 03(981)2646

社団法人 日本歯科先端技術研究所監事
日本歯科東洋医学会 理事

院長 医学博士 関根 博 (57期)

筆友・信也を偲ぶ

高田秀二 (42期)

齋藤信也が死んでしまった。昨年春ウイスキーをもって戸塚の丘の上の家を訪ねた。眼を悪くしていた彼は、奥さん運転の車で駅近くまで迎えに来てくれた。

「こんな高価なウイスキーより、安いのを沢山持ってきてくれれば・・・」などと言いつつももうまそうに飲んでいた。また行こう、また行こうと思っているうち訃報を迎えてしまった。

私は安積では先年逝った兄の立哉と同級なのだが、旧制中学四年から、弘前中学校に入った彼とは高校時代からいい飲み仲間だった。東大では彼は美学、私は仏文でよく会っては飲んだ。私の卒論は「シェール・ルナルとその生活」だったが、ルナルは彼の愛読書でもあり、よく議論し私の論文の参考になるような意見もよく述べていた。

彼は朝日新聞に、私は同盟通信に入社、同じ記者同志、夏目漱石の縁戚のママがやっている新橋の「夏目」という飲屋でよく飲んだ。彼はすぐ酔っ払ってラチもない事を言ってよく私を困らせたものだが、酔って言う言葉のハシハシに時として彼の文学的才能が見えかくれていた。

戦後、私が共同通信のパリ支局長時代、皇太子の英女王戴冠式ご出席に随行した彼がパリに寄った。毎晩のようにモンマルトルあたりで飲んだ。酔っばらうと彼がチップで札ビラを切ろう

とするので、よくそれを止めたものだった。帰宅してから手紙をくれたが、パリが一番面白かったとあった。

アルコールとの闘いの後、多少酒量も少なくなり、酒癖もよくなったが、彼の筆はむしろ前の方が鋭かったような気もする。

とにもかくにも大朝日で「葉」の名で人物評を、夕刊のコラム「素粒子」を書き続けたのは、彼の文才が並のものでなかったことの証拠であり、晩年糖尿病から眼をやられたのは彼にとっても残念だったろう。それでも毎日の新聞を奥さんに読んでもらっていたという。

私もこの三月で満七十五歳、年をとるとだんだん仲間が死んでいく。ことに信也のように少年時代からの心友を失うのは悲しい。

信也よ、あの世で心おきなく酒を飲んでくれ、いずれ私もその酒席に加わるから。

(合掌)

(共同通信社社友)



故 齋藤信也氏

天声人語

齋藤信也さんは本紙夕刊の『素粒子』を十九年書き続けた。退社は一九七七年の夏だ。戦後まもなく夕刊に(葉)の署名で『人物天気図』を連載した人でもある。ありていにいえば人語子が朝日新聞を志した理由の一つに(葉)氏へのあこがれがあった。その人が亡くなった。▷新聞記事で一番難しいのは、新聞用語でいう「雑報」だと齋藤

さんは書いている。火事や泥棒の記事も雑報だし、大災害や政変の記事も雑報である。新聞の質を決めるのは雑報のよしあしだといっている。▷「私を含めて、論説委員などにしても、完全な雑報を書けた記者が何人あるか。火事場に出され、国会風景の点描を命じられ、どれほどの雑報が書けたか甚だ心もとない」という自省があった。▷いい雑報を書くには要件がある。現場へ行く腰の軽さ。ねばり強さ。細密で確かな観察眼。熱い思いを抑える冷静さ。先入観を排するやわらかな心。ここに人間らしい動きがあると見極める目。意外性をみつける嗅覚(きゅうかく)▷『人物天気図』は雑報とはいえないが、少なくともそこにはいい雑報の要素がある。たとえば高田保さんとの問答がある。阿部真之助評いかん「群馬の長脇差、仁侠の精神ですからね。いい人なんです」大宅壮一は「原稿用紙をムダ使いせぬ男ですよ」。いい男ばかりでは困るのであるといった趣を申し上げると「人物評論は当たり障りのないことじゃないですか」▷さりげない問答の中で高田保の人物像が浮かびあがる。齋藤さんは「人物」という現場に飛んで、細密で確かで、意外性のある雑報的人物論を書き続けた▷手術後、看病を続ける敏子夫人に齋藤さんはいった。「おかあちゃん、疲れただろうから帰ってお休み」。それが最期の言葉になった。出棺の日、夫人は棺の中に愛用の広辞苑と鉛筆と原稿用紙を入れた。酒仙だった「おとうちゃん」のために、ウイスキー一本分を体にくりかけたそうだ。

(朝日新聞、1987年11月4日付)



NIKKA WHISKY

第三のピュアモルトは、
スコットランドの沖、
アイレイ島のモルトを主体にしています。

飲酒は20歳を過ぎてから。

取締役東京支店長
鈴木昌寿(64期)

モルト原酒100% ニッカ ピュアモルト
ブラック・レッド・ホワイト(新登場)・各500ml 2,500円(税別)

執務局より

□ことしも春、恒例の『総会』を迎えることになりました。世代を超えて、職域を超えて、値千金の育をもてますことは、桑野路を歩み、安積に学んだ我々が等しく喜びとするところです。

□かねてより検討課題でありました東京桑野会名簿の改訂は、事務局最大の急務となっております。住所変更及び会員の消息をお知りになられた際は、事務局への連絡をよろしくお願いいたします。

□重要文化財であります母校旧本館前には、明治、大正、昭和三代の安積健児の像がたっております。なつかしの本館とともに安積のシンボルです。佐藤静司さん(45期)の作品であることは、ご存知のことと思います。この安積健児の像は、皆様からのご要望もありとくにレリーフを製作していただきました。お申し込みは斉藤英彦さん(69期) □03-356-6677=までお願いいたします。頒価：三万円。

□10号の発行については、多くの皆様から協賛広告をいただきました。横田良さん(81期)からは、事務局へ多大のカンパをお送りいただきました。この欄を借りて、お礼申し上げます。

□若い会員の参加が、徐々にではありますが増えております。先輩と後輩と、共通の体験にたって語りあえる会とすべく、更に『輪』を広げていきたいものと考えます。

□このたびも、岡本啓子さんには、種々ご面倒をおかけしましたことを、会員各位にご報告し、岡本さんにお礼申し上げますとおもいます。

編集後記

□先輩の創刊号から受け継いだ東京桑野会会報の記念すべき第10号をお届けします。記念号として、従来の2倍の32ページを企画しましたが、実に多くの方のご協力で出来上がりました。

□母校の松田校長・安積桑野会の阿部新会長のご挨拶、三沢元会長夫人からは安女卒業生としてのお話も含めて思い出話を寄せて戴きました。

□「青森」とは縁の深い第10号になりました。西館氏の「青森桑野会を思う」、玄葉氏と同訪問記、松崎氏の青森の「豊かさ」の寄稿。高瀬先輩の安中から青森中への転校の話、高田先輩・故斎藤氏の弘前高校のこと等々。安積-青森-東京という地域の環の必然が感じられます。

11ページの色紙の写真は、「学生野球の神様」飛田穂洲氏から昨年亡くなられた斎藤信也氏へ贈られたもの。斎藤夫人のご厚意で紹介させて戴きました。後輩の「甲子園への道」の励みになって欲しいと思います。

□座談会『われら法曹』では、4人の弁護士の方々にお集まり戴いて、安積の卒業生にはやゝナジミの少ない「法曹界」への導きのための興味あるお話と激励を戴きました。

□表紙のカットは、フリーランス・デザイナーの渡辺守治(48期)にお願いしました。

□毎号の通り10号についても、長谷川輝、吉田弘俊両先輩には物心両面にわたってお世話になりました。

□来年昭和64年(1989)は、母校旧本館竣工百年の年です。第11号はその特集を考えております。(水口)

□第10号の難関は31本もの広告集め、郡山の小針良雄先輩(67期)に大感謝。

また柳沼彌重先生と我が広報部とのやりとり、冷汗ものでした。(桜井)

□忘れた頃に届く会報ですが強力な若手の編集への参加もあり、広告の心配無しに、忘れないうちに次号が届く季刊程度にしたいものです。(大竹)

□一見柔軟、コツコツまじめだけど視野狭く、攻めは苦手、昇進するや上司風-某夕刊紙の『中通り人評』です当たってる?—でも、嬉しい桑野会の出会い。(丹治)

□「人買い桜井」のささやきに眩惑され、東京桑野会会報部会にら致されて以来、会報第10号が3作目になります。いままでの働きに対する評価は先輩諸氏の言葉に従順にしたいが「いないよりまし」というところですか。(村上)

□広報部会のお手伝いをするようになってから、3度目の会報発行となります。コピー係、又はさし入れの整理係に徹している私は、他の方々の熱心さに安積を愛する心を見出し、感銘を受けております。今回は10号記念で、ページ数も多く内容も豊富です。その中で超伝導のデンは伝だという永山さんの意見に私は賛成します。(坂本)

□初めて編集に携わり、その大変さに驚くとともに先輩方の母校への熱き思いをしみじみ感じ入りました。(玄葉)

□「目次」どうしようかとまで成長した会報を見て、水口・桜井コンビと丹治牽引車に加えて若い頭脳集団スタッフ一同の労を多としたい。尚毎回御協力お願いしている広告スポンサーにこの場を借りて厚くお礼申し上げます。(長谷川)

大蔵政務次官 参議院議員 佐藤 栄 佐 久 (71期)



関根 清馬 (71期)
馬場 幸蔵 (85期)
飛田 新一 (89期)
渡部佳奈美 (安女36期)
山尾ちか子 (安女37期)

大蔵省 千代田区霞が関3-1-1
電話(代) 03-581-4111
(直) 03-581-2714
国会事務所 千代田区永田町2-1-1
参議院議員404号室
電話(代) 03-581-3111
(内) 5404、6404
(直) 03-508-8404
FAX 03-502-8844
郡山事務所 郡山市清水台1-3-8
郡山商工会館508号
電話 249-23-7185
FAX 0249-22-7518